G-Class

取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（▷250 ページ）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に ▶ を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

ℹ メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

マーク	内容
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。

⚠ 事故のおそれがあります

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

ア

カ

サ

タ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

E

I

S

数字

環境保護について

ダイムラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

環　境

ダイムラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷37 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをできるだけ後ろの位置にしてください。

- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをできるだけ後ろの位置にして、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやテールゲートのチャイルドプルーフロック（▷42 ページ）、パワーウインドウのセーフティスイッチ（▷42 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷91 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。

- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

  また、上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（▷93 ページ）が作動します。

走行中

- セレクターレバーを N に入れたまま走行し続けないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。また、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

4 輪駆動車（4WD）の取り扱い

4 輪駆動走行は、滑りやすい路面などで本来の優れた走行性能を発揮しますが、どこでも走れる万能車ではありません。路面の状況や斜面に注意して安全運転を心がけてください。

オフロードでの走行（▷193 ページ）も併せて参照してください。

オフロード走行は慎重に

急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りや横転などの原因になります。また、車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。

積雪路や凍結路を走行するときは

できるだけ低速で走行し、急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。

砂地やぬかるみを走行するときは

車から降り、砂地やぬかるみの状態を確認してから、できるだけ低速で走行してください。

急な坂道を上るときは

土手や斜面では、傾斜に対してまっすぐに走行してください。斜めに走行すると、車が横転するおそれがあります。

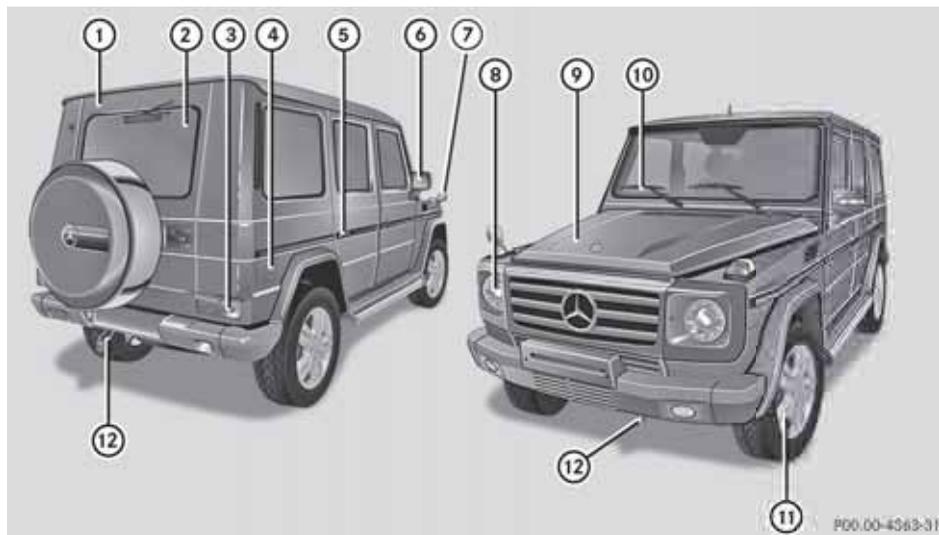
乾燥した舗装路、高速道路を走行するときは

- クロスカントリーギアにしないでください（▷99 ページ）。エンジンが高回転になり、エンジンを損傷するおそれがあります。
- ディファレンシャルロック（▷101 ページ）をオンにしないでください。ステアリングがまわしにくくなるため、車が直進し、事故につながるおそれがあります。また、駆動装置を損傷するおそれがあります。

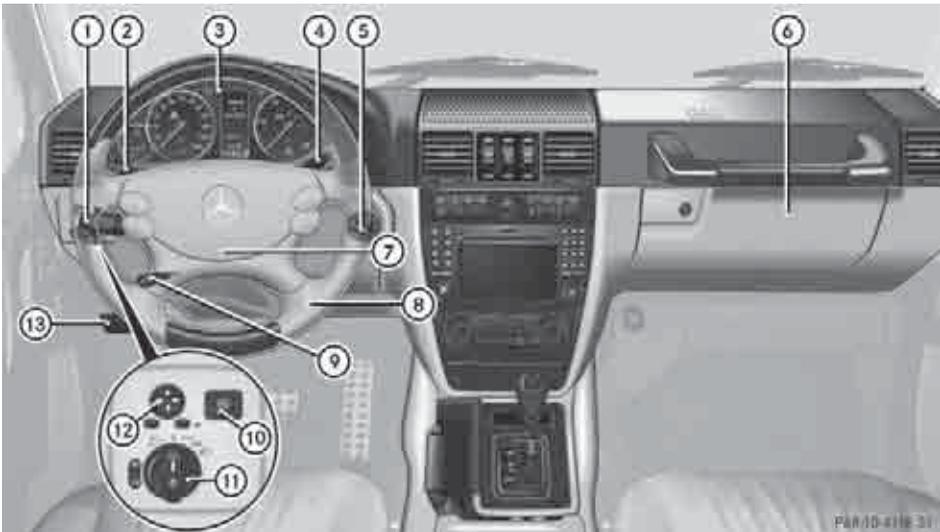
オフロード走行後

損傷した箇所がないか入念に点検してください。

損傷があるときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

外観

	名称	ページ
①	テールゲート	58
②	リアデフォッガー	145
③	テールランプ	240
④	燃料給油口	165
⑤	ドア	56
⑥	ドアミラー	67
⑦	サイドアンダーミラー	69
⑧	ヘッドランプ	76 240
⑨	ボンネット エンジンオイル ブレーキ液	167 170 263 176 264

	名称	ページ
⑨	ウォッシャー液 冷却水	177 265 174 264
⑩	ワイパー	85
⑪	タイヤとホイール	178 266
⑫	けん引フック	252

インストルメントパネル

	名称	ページ
①	コンビネーションレバー （ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー）	79 79 86
②	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	128 131
③	メーターパネル	22 104
④	音声認識レバー	別冊
⑤	エンジンスイッチ	61
⑥	グローブボックス	156
⑦	ホーン	
⑧	ステアリング	66
⑨	ステアリング調整レバー	66
⑩	ヘッドランプウォッシャースイッチ	80
⑪	ランプスイッチ	76
⑫	ドアミラー調整スイッチ	68
⑬	ボンネットロック解除ハンドル	167

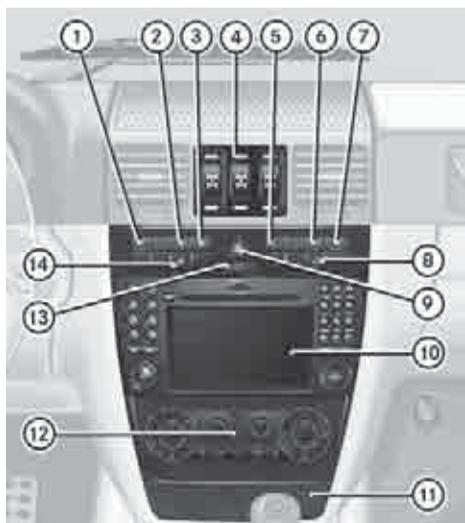
メーターパネル

	名称	ページ
①	ヘッドランプ表示灯	77
②	ESP 表示灯	47
③	スピードメーター	105
④	車間距離警告灯 [1]	
⑤	方向指示表示灯	80
⑥	マルチファンクションディスプレイ（車両情報メイン画面）	110
⑦	ABS 警告灯	45
⑧	シートベルト警告灯	29
⑨	SRS 警告灯	30
⑩	エンジン警告灯	215 224
⑪	燃料残量警告灯	105
⑫	燃料給油口位置表示	105
⑬	燃料計	105
⑭	タコメーター	106
⑮	ハイビーム表示灯	79
⑯	マルチファンクションディスプレイ（車両情報サブ画面）	110
⑰	トランスファー表示	100
⑱	シフト位置表示	96
⑲	タイヤ空気圧警告灯 [1]	
⑳	ブレーキ警告灯	216 223 224
㉑	冷却水温度計	105
㉒	メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン	105

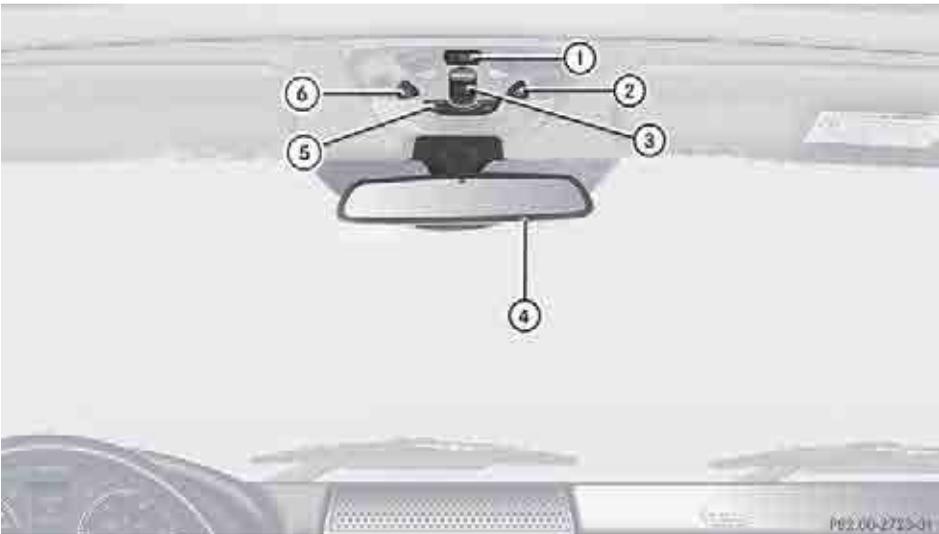
1) 日本仕様車では、警告灯としては機能しません。

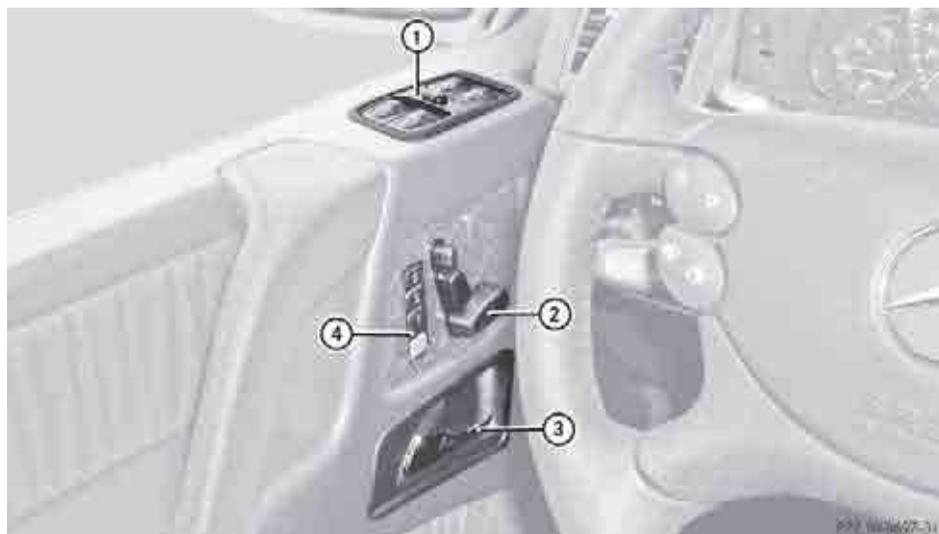
マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	107
②	＋ − 設定スイッチ / 音量スイッチ	107
③	通話開始スイッチ / 通話終了スイッチ	107
④	表示切り替えスイッチ	107
⑤	スクロールスイッチ	107

センターコンソール

	名称	ページ
①	シートヒータースイッチ（運転席）	64
②	リアワイパースイッチ	87
③	ESP オフスイッチ	48
④	ディファレンシャルロックスイッチ	102
⑤	ドアロックスイッチ	58
⑥	けん引防止警報機能解除スイッチ	51
⑦	シートヒータースイッチ（助手席）	64
⑧	室内センサー解除スイッチ	52
⑨	非常点滅灯スイッチ	80

	名称	ページ
⑩	COMAND システム	別冊
⑪	灰皿 / ライター	159 160
⑫	エアコンディショナーコントロールパネル	138
⑬	助手席エアバッグオフ表示灯	39
⑭	リアウインドウウォッシャースイッチ	87
⑮	セレクターレバー	95
⑯	トランスファースイッチ	100
⑰	パーキングブレーキレバー	94

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ	82
②	読書灯スイッチ（右側）	82
③	スライディングルーフスイッチ	148
④	ルームミラー	67
⑤	ルームランプスイッチ	82
⑥	読書灯スイッチ（左側）	82

ドアトリム操作部

運転席ドア

	名称	ページ
①	ドアウインドウスイッチ	88
②	シート調整スイッチ	62
③	ドアレバー	56
④	メモリースイッチ ポジションスイッチ	70

乗員安全装備

乗員保護装置

事故が発生したときの衝撃により、車は急激に加速または減速するおそれがあります。

そのとき、乗員は車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出されて、けがをするおそれがあります。

ただし、シートベルトを中心に、シートベルトテンショナーやベルトフォースリミッター、エアバッグなどで構成される乗員保護装置によって、負傷する可能性を最小限にでき、また、万一負傷したときにも、けがの程度を最小限にとどめることができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

エアバッグの効果について

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグはシートベルトの効果を補助する装置であり、シートベルトの代わりになるものではありません。必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用し、シートのバックレストをできるだけ垂直の位置にして乗車してください。

ℹ シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

ℹ エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。また、乗員が正しくシートベルトを着用している場合、状況によってはエアバッグによる補助的な保護を必要としないことがあります。

シートベルト

シートベルトとチャイルドセーフティシート（▷37 ページ）は、車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出される危険から乗員を守ります。

シートベルトとチャイルドセーフティシートは、衝突時における最も重要で効果的な乗員保護装置です。

シートベルトについて、詳しくは（▷72 ページ）をご覧ください。

! 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 乗車するときは、すべての乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
- シートベルトを着用していなかったり、シートベルトのプレートが確実にバックルに差し込まれていないと、事故などのとき致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトやバックルが汚れていたり損傷していると、シートベルトの保護機能が正しく発揮されません。

  シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。

  ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない

  ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない

  ◇ バックル部分に異物を入れない

  ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用しないでエンジンスイッチを **2** の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター
- エアバッグ

SRS SRS 警告灯

エンジンスイッチを **1** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ けがのおそれがあります

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- エンジンスイッチを **1** の位置にしたときは数秒後に、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときはエンジンを始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向などに基づいて作動します。

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

フロントシートと左右リアシートのシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーは、エンジンスイッチが **2** の位置で、以下のときに作動します。

- SRS に異常がないとき
- シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の前後方向に急激に強い衝撃が加わったとき
- 車両の横転などにより、前後方向から一定以上の衝撃を検知したとき

また、助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席のシートベルトテンショナーは作動しません。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

フロントシートと左右リアシートのシートベルトに装備されています。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- リアのシートベルトテンショナーは、作動時にバックルが下方に引き込まれます。バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

i シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。

ⓘ シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

ⓘ シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

ⓘ シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグ

けがのおそれがあります

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。ウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

けがのおそれがあります

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- シートのバックレスト側面

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

⚠ けがのおそれがあります

- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

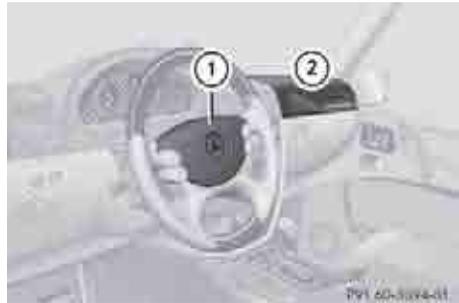
! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

i シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。

i エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

① 運転席エアバッグ
ステアリングパッド部
② 助手席エアバッグ
助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

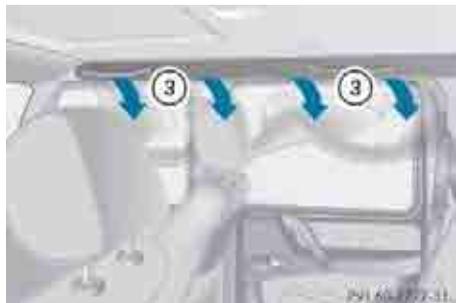
運転席 / 助手席エアバッグは、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、前方から一定以上の衝撃を検知したとき
- エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能をさらに高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 車両の横転などにより、前後方向から一定以上の衝撃を検知したとき

また、助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

ℹ 助手席に重い荷物などを積んでいると、事故などのときに助手席エアバッグが作動することがあります。

ℹ 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

ウインドウバッグ

③ ウインドウバッグ
フロントピラーからリアピラー部までのルーフライニング部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を分散・軽減します。

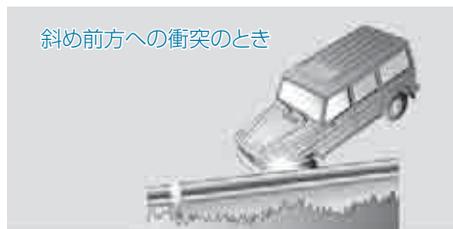
ウインドウバッグは、運転席 / 助手席エアバッグの作動、助手席の乗員の有無、シートベルトの着用に関わらず、衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

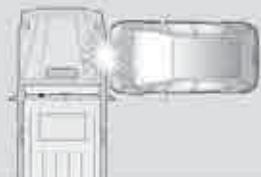
また、車が横転したときもウインドウバッグは作動することがあります。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

ウインドウバッグが作動するとき

ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

リアヘッドレスト

⚠ 事故のおそれがあります

乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けて、ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

けがのおそれがあります

- チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  - ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  - ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
  - ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
  - ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。
- 重い物やかたい物を積載するときは、確実に固定してください。
- 荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急な進路変更
  - ◇ 事故

荷物の積み方について、詳しくは（▷150 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

けがのおそれがあります

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- センサー付き純正チャイルドセーフティシート以外のチャイルドセーフティシートは、リアシートに装着してください。やむを得ず助手席シートに装着するときは、前向きに装着するタイプのみとし、助手席シートをできるだけ後ろの位置にしてください。事故のとき、助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、チャイルドセーフティシートをリアシートに装着してください。やむを得ず助手席シートに装着するときは前向きに装着し、助手席シートをできるだけ後ろの位置にしてください。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正の物に交換してください。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されてけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

i チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、サンバイザーに貼付されています。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー社では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10kg 以下 または 約 13kg 以下	新生児～ 9 カ月位 または 18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～ 4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～ 12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断するシステムです。

助手席にセンサー付きの純正チャイルドセーフティシートを装着すると、助手席エアバッグの機能が解除され、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグオフ表示灯①はエンジンスイッチを **1** か **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

点灯してから数秒後に消灯しないとき、またセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着していないのに点灯するときは、システムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **けがのおそれがあります**

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。

- 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプの純正チャイルドセーフティシートは必ず後席に装着してください。
- やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをできるだけ後ろの位置にしてください。
- 助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードや IC カードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれやセンサー付き純正チャイルドシートを検知できずに助手席エアバッグが作動するおそれがあります。
- 助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

ℹ 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯して助手席エアバッグが解除されているときも、助手席のシートベルトテンショナーやウインドウバッグの機能は解除されません。

チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートを装着するとき、シートベルトをロックするシステムです。運転席以外のシートベルトに装備されています。

※ 車種や仕様により、後席シートベルトにチャイルドセーフティシート固定機構が装備されていない場合があります。

⚠ けがのおそれがあります

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

! 助手席シートベルトにチャイルドセーフティシート固定機構が装備されていますが、チャイルドセーフティシートはできるだけリアシートに装着してください。

やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、助手席エアバッグの機能を解除するセンサー付きの純正チャイルドセーフティシートを装着してください（▷38 ページ）。

固定機構を使用する

▶ チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく装着します。

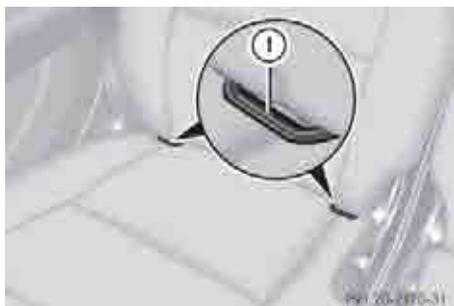
▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ状態でシートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

! チャイルドセーフティシートを固定した後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

▶ シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

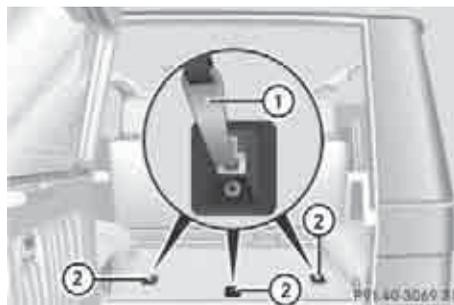
! シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトが引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

① 固定装置

左右のリアシートに、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置①を装備しています。

⚠ けがのおそれがあります

- 固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、指定サービス工場で新品に交換してください。

テザーアンカー

① テザーフック
② テザーアンカー

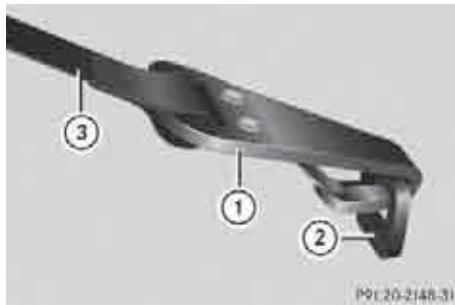
ラゲッジルームにテザーアンカー②を装備しています。

それぞれのテザーアンカーには、テザーベルトを使用して、テザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを装着することができます。

チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のとき、チャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

テザーフックを取り付ける

① テザーフック
② テザーアンカー
③ テザーベルト

- ▶ セーフティネットを取り外します（▷154 ページ）。
- ▶ リアシートにチャイルドセーフティシートを装着します。

  装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- ▶ ヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルト③を通します。
- ▶ テザーフック①をテザーアンカー②にかけます。
- ▶ テザーベルト③を締め付けます。

  締め付け方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- ▶ 必要であれば、ヘッドレストを少し下げます。

  テザーベルトの動きが妨げられていないことを確認してください。

チャイルドプルーフロック

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドア ／ テールゲートのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

事故やけがのおそれがあります

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやテールゲート、リアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

リアドア / テールゲートのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドア
① ノブ

テールゲート
① ノブ

車内のレバーを引いてもリアドアやテールゲートが開かなくなります。

▶ ノブ①を、エマージェンシーキーの先端やドライバーなどで下側の位置にします。

▶ リアドアまたはテールゲートを閉じます。

▶ 解除するときは、ノブ①を上側の位置にします。

ⓘ チャイルドプルーフロックを設定したリアドアやテールゲートを開くときは、リモコン操作やドアロックスイッチでリアドアやテールゲートを解錠して、車外から開いてください。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

① セーフティスイッチ

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの操作ができなくなります。

▶ セーフティスイッチを ● の見える位置（右にスライド）にします。

リアドアのスイッチでドアウインドウを開閉できなくなります。

▶ 解除するときは、セーフティスイッチを ● の見えない位置（左にスライド）にします。

ⓘ セーフティスイッチの設定 / 解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチでは、リアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック·ブレーキング·システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- 4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

ⓘ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、ABS や BAS、ESP の効果が発揮されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

 事故のおそれがあります

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。

- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷213 ページ）をご覧ください。

i ABS に異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなることがあります。

◇ ESP

◇ BAS

◇ 4ETS

i ABS に異常があると、ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

i ディファレンシャルロックをオンにすると、ABS が解除され、ABS 警告灯と ESP 表示灯が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに "ABS ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｽ DIF- FERENTIAL LOCK" と表示されます（▷102 ページ）。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

(ABS) ABS 警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、ESP、BAS、4ETS は作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

事故のおそれがあります

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは(▷213 ページ）をご覧ください。

i BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

i BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

i バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

ESP

ESP（エレクトロニック·スタビリティ·プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

事故のおそれがあります

- ESP は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 前輪または後輪を持ち上げてけん引されるときや、ダイナモメーター上でパーキングブレーキのテストを行なうときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしないでください。ESP によりブレーキが作動し、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

! マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、（▷213、214 ページ）をご覧ください。

i ディファレンシャルロックをオンにすると、ESP の機能が解除されます。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP が作動することがあります（走行中に ESP 表示灯が点滅したままになります）。

i ABS に不具合が生じたときは、ESP も機能を停止します。

i ABS 警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ESP も作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ESP 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを **0** の位置に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると故障 / 警告メッセージや ESP 表示灯、ABS 警告灯は消灯します。

⚠ ESP 表示灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。発進時または走行中に点滅したときは、ESP または 4ETS（▷49 ページ）が作動しています。

また、以下のときは点灯したままになります。

- ESP の機能が解除されているとき（▷47 ページ）
- ESP が故障しているとき（▷223 ページ）

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP 表示灯が点滅しているときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ操作
- ESP の機能の解除

ESP オフスイッチ

① ESP オフスイッチ

ESP オフスイッチは、ESP の機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESP の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP オフスイッチ①を押します。

ESP の機能が解除され、ESP 表示灯が点灯したままになります。

ESP を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP オフスイッチ①を押します。

ESP が待機状態になり、ESP 表示灯が消灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したときは、必ず路面の状況に合わせた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
  - ◇ 急ハンドル
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急発進、急加速
  - ◇ 急激なエンジンブレーキ操作
- ESP の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができません。

ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP 表示灯が点滅しますが、ESP は作動しません。

ただし、以下のときは ESP が作動します。

- 走行速度が約 60km/h 以上のとき
- ブレーキを効かせたとき

エンジンを始動したとき、ESP は常に待機状態になります。

ESP の機能を解除しても、4ETS の機能は解除されません。

EBV

EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです

⚠ 事故のおそれがあります

EBV に異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、後輪がロックするおそれがあります。路面の状況に合わせて慎重に運転してください

4ETS

4ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

4ETS は速度が約 60km/h 以下のときに作動します。

4ETS が作動すると、ESP 表示灯（▷47 ページ）が点滅します。

⚠ 事故のおそれがあります

- 4ETS は駆動力を確保し、車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- 4ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 前輪または後輪を持ち上げてけん引されるときや、ダイナモメーター上でパーキングブレーキのテストを行なうときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしないでください。4ETS によりブレーキが作動し、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

ABS に不具合が生じたときは、4ETS、ESP、BAS の機能も解除されます。

ESP の機能を解除しても、4ETS の機能は解除されません。

盗難防止システム

盗難防止警報システム

① けん引防止警報機能解除スイッチ
② 表示灯

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

- ドアが開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- けん引などで車が持ち上げられて車が傾いたとき(けん引防止警報機能)(▷51 ページ)
- ウインドウが割られたり、車内で人などが動いたとき（室内センサー）(▷52 ページ)

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

けん引防止警報機能解除スイッチ①の表示灯②が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯②が点滅を続けます。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

! システムが待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開くと警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

! システムを待機状態にしても、表示灯②が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

警報の作動

警報が作動すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約 2 倍の速さで約 5 秒間点滅します。また、ルームランプも約 5 秒間点灯します。

バッテリーの接続が絶たれたときも、サイレンが鳴ります。

ℹ リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやテールゲートを解錠して開くと、警報が作動します。

警報が作動したときの停止方法

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

ℹ ドアやテールゲート、ボンネットなどを開いて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

けん引防止警報機能

① けん引防止警報機能解除スイッチ
② 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のとき、けん引などで車が持ち上げられて車が傾くと、けん引防止警報機能が作動して、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

けん引防止警報機能を待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

約 30 秒後にけん引防止警報機能が自動的に待機状態になります。

ⓘ けん引防止警報機能が待機状態のときにジャッキアップすると、警報が作動する場合があります。

けん引防止警報機能の待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

警報が作動したときの停止方法

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

車を立体駐車場に入れたり、カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するときは、けん引防止警報機能が作動することがあります。そのようなときはけん引防止警報機能を解除してから施錠してください。

けん引防止警報機能を解除する

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ けん引防止警報機能解除スイッチ①を押します。

表示灯②が数秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

けん引防止警報機能が解除され、車が傾いても警報が作動しなくなります。

ⓘ けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

室内センサー

① 室内センサー解除スイッチ
② 表示灯

車内の状態を監視し、ウインドウが割られたり、車内での人の動きなどを感知すると、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

室内センサーは車内のルーフ中央部にあります。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

けん引防止警報機能解除スイッチの表示灯が点滅し、約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作で車を解錠します。

警報が作動したときの停止方法

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

! ルームミラーにマスコットなどをかけたり、アームレストの上に物を置いたまま室内センサーを待機状態にしないでください。室内センサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

車内に人が残る場合などは、室内センサーを解除してから車を施錠してください。

室内センサーの解除

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 室内センサー解除スイッチ①を押します。

表示灯②が数秒間点滅し、その後消灯して、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

オープン / クローズ

キー

事故のおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内のドアレバーを引いてドアを開いたり、運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 車から離れるときは、短時間でも必ず車を施錠してください。また、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- 重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして取り付けないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。

! キーは衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動のおそれがあります。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

i 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。

i 2 つのキーを見わけるためキーのストッパーの色は異なります。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ エマージェンシーキー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- 以下の各部の解錠 / 施錠
  - ◇ドア
  - ◇テールゲート
  - ◇燃料給油フラップ
- ドアウインドウとスライディングルーフの開閉

操作時に表示灯②が 1 回点滅します。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

i 車がバッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもリモコン操作での解錠 / 施錠はできません。

i キーの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

i リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したこと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠され、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠することができます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯②が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップが解錠されます。
- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドアとリアドア、テールゲートが解錠されます。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯②が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、ドアミラーランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約40秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（▷120 ページ）をご覧ください。

ドアの開閉

⚠ **事故のおそれがあります**

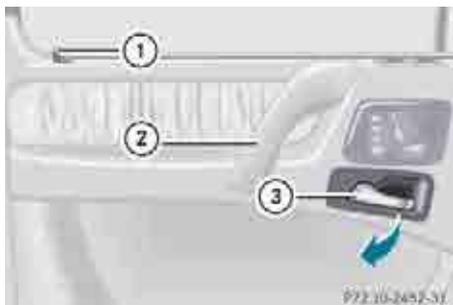
- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全 (半ドア) な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 助手席のドアとリアドア、テールゲートは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷215 ページ）。

車内からの開閉

① ロックノブ
② インナーグリップ
③ ドアレバー

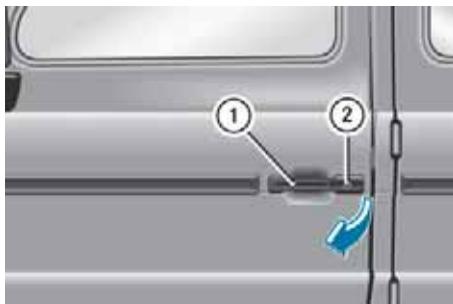
車内から開く

▶ ドアレバー③を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ①が上がって解錠され、ドアも開きます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ②を持って確実に閉じます。

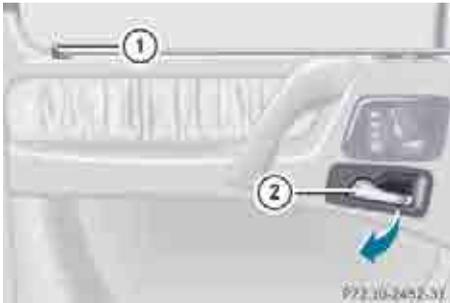
車外からの開閉

① ドアハンドル
② キーシリンダー

車外から開く

▶ キーシリンダー②を押し、ドアハンドル①を持ってドアを開きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

ドアごとに施錠 / 解錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ①を押し込みます。

! 施錠後は、すべてのロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（▷122 ページ）をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。タイヤが回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアかテールゲートを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

i 車速感応ドアロックで施錠されたドアを車内から開いて解錠したときは、開いたドアを再度閉じて走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアは再び施錠されます。

i 車速感応ドアロックにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

ドアロックスイッチ

① ドアロックスイッチ（解錠）
② ドアロックスイッチ（施錠）

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）①を押します。施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）②を押します。

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からテールゲートを開いて、事故やけがをするおそれがあります。

ℹ ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内からフロントドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。

ℹ ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

ℹ リアドアやテールゲートが開いているときにドアロックスイッチで施錠すると、開いているリアドアやテールゲートのロックノブが下がります。そのまま閉じると施錠されます。

ℹ 助手席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチでは施錠できません。

ℹ 運転席ドアが開いているときに、ドアロックスイッチで施錠すると、運転席以外のドアが施錠されます。

ℹ リモコン操作で施錠してあるときは、ドアロックスイッチでは解錠できません。

テールゲート

⚠ **事故のおそれがあります**

エンジンがかかっているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

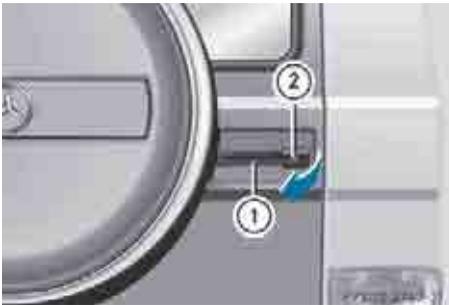
子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からテールゲートを開いて、事故やけがをするおそれがあります。

! テールゲートを開くときは、後方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

! テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

ⓘ リモコン操作で解錠できないときは、車外からエマージェンシーキーで解錠することができます

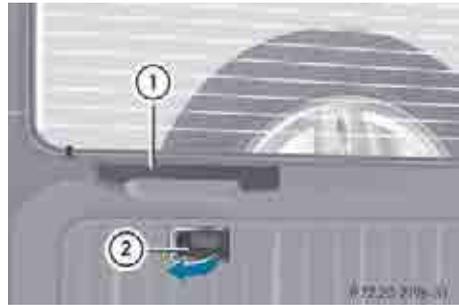
車外からの開閉

① テールゲートハンドル
② キーシリンダー

テールゲートを開く

▶ キーシリンダー②を押し、テールゲートハンドル①を持ってテールゲートを開きます。

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートハンドル①を持って確実に閉じます。

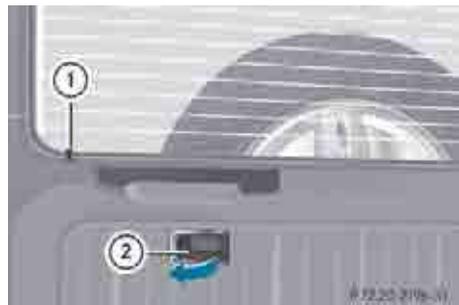
車内からの開閉

① インナーグリップ
② レバー

テールゲートを開く

▶ レバー②を矢印の方向に引きます。

テールゲートを閉じる

▶ インナーグリップ①を持って確実に閉じます。

車内からの解錠 / 施錠

① ロックノブ
② レバー

車内から解錠する

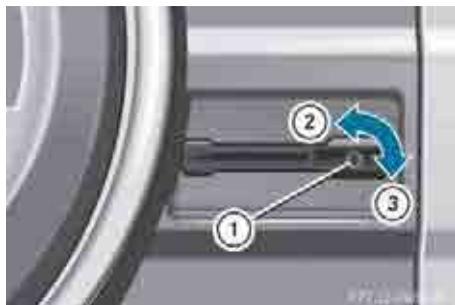
▶ レバー②を矢印の方向に引きます。

このときテールゲートも開きます。

車内から施錠する

▶ ロックノブ①を押し込みます。

! リモコン操作で施錠した後に、レバーを引いてテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押します。

エマージェンシーキーでのテールゲートの解錠 / 施錠

① キーシリンダー
② 解錠方向
③ 施錠方向

リモコンが機能しないときは、エマージェンシーキーでテールゲートを解錠 / 施錠できます。

解錠する

▶ キーシリンダー①にエマージェンシーキー（▷233 ページ）を差し込みます。

▶ 解錠方向②にまわします。

施錠する

▶ キーシリンダー①にエマージェンシーキーを差し込みます。

▶ 施錠方向③にまわします。

! リモコン操作で施錠されているときに、エマージェンシーキーでテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止するには、キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押すか、キーをエンジンスイッチに差し込みます。

! エマージェンシーキーでテールゲートを解錠 / 施錠しても、ドア、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。

エンジンスイッチ

	作動内容
⓪	**0**：キーを差し込む / 抜く位置
①	**1**：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	**2**：走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	**3**：エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを **3** の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

タッチスタート

エンジンスイッチを **3** の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続けて、エンジンが始動します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! バッテリーあがりを防止するため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

! エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

i セレクターレバーが **P** に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。

i キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

シート

 事故のおそれがあります

運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷32ページ）。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

! シートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときはリアシートと接触しないように注意してください。シートやシートバックポケットの収納物を損傷するおそれがあります。

! バックレストの角度やヘッドレストの高さを調整するときは、サンバイザーを収納してください。ヘッドレストが最も高い位置にあるときは、サンバイザーとヘッドレストが接触するおそれがあります。

シートの調整

左側シートのスイッチ
① バックレストの傾き調整
② シートの前後位置調整
③ シートクッションの傾き調整
④ シートの高さ調整

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、または操作する側のフロントドアが開いているときにシートの調整ができます。

バックレストの傾きを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①の方向に操作します。

シートの前後位置を調整する

▶ シート調整スイッチを矢印②の方向に操作します。

シートクッションの傾きを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印③の方向に操作します。

シートの高さを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印④の方向に操作します。

ヘッドレスト

⚠ 事故のおそれがあります

乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

ヘッドレストの中心が目の高さになるように調整してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

フロントヘッドレスト

左側シート
① 高さ調整スイッチ

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 高さ調整スイッチ①を矢印の方向に操作します。

ヘッドレストを取り外す

▶ ヘッドレストをいっぱいまで上げます。

▶ ヘッドレストの支柱を持ち、引き抜きます。

ヘッドレストを取り付ける

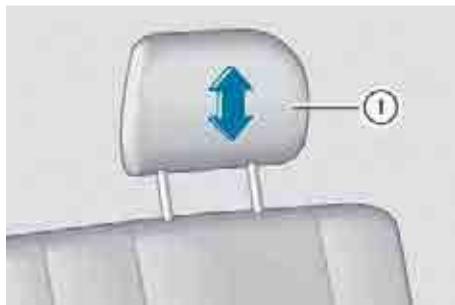
▶ 高さ調整スイッチ①を上方に約 5 秒間操作します。

▶ ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んで、押し込みます。

ヘッドレストのリセット

バッテリーがあがったりバッテリーの接続が一時的に断たれたときは、ヘッドレストのリセットが必要になることがあります。

▶ シートをいっぱいまで前方に移動してから、ヘッドレストをいっぱいまで下げます。

リアヘッドレスト

① リアヘッドレスト

ヘッドレストの高さ調整

▶ 矢印の方向に手で上下させます。

ヘッドレストの取り外し

▶ ヘッドレストを引き上げて取り外します。

ヘッドレストの取り付け

▶ ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、押し込みます。

シートヒーター

! コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。

◇ 乳幼児、高齢者、病人、体が不自由な方

◇ 皮膚の弱い方

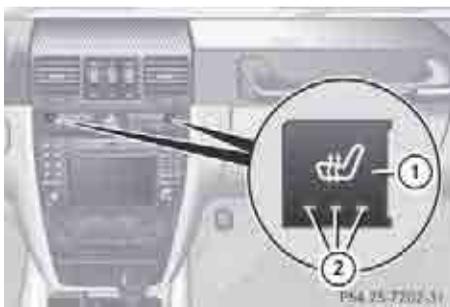
◇ 疲労の激しい方

◇ 眠気をさそう薬を服用した方

◇ 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときはスイッチの表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

フロントシートヒーター

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

スイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを使用する

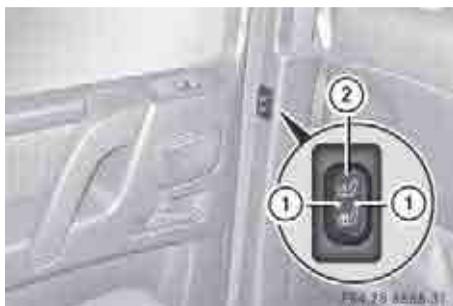
▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

リアシートヒーター

① 表示灯
② リアシートヒータースイッチ

エンジンスイッチが **2** の位置のときに使用できます。

シートヒーターを強で使用する

▶ リアシートヒータースイッチ②の下側を押します。

表示灯①が 2 つ点灯します。

シートヒーターが強で作動し、約 5 分後に自動的に弱に切り替わります。

シートヒーターを弱で使用する

▶ リアシートヒータースイッチ②の上側を押します。

表示灯①が 1 つ点灯します。

シートヒーターが弱で作動し、約 30 分後に自動的に停止します。

シートヒーターを停止する

▶ 強で使用しているときはリアシートヒータースイッチ②の下側を押します。

▶ 弱で使用しているときはリアシートヒータースイッチ②の上側を押します。

ℹ 左リアシートのシートヒーターを作動させると、中央リアシートも暖まります。

ステアリング

 事故のおそれがあります

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

 けがのおそれがあります

運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

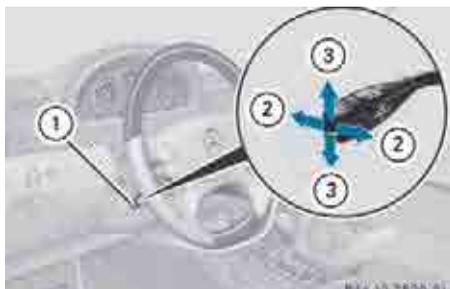
ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作することでステアリングが動きだし、ステアリングに身体を挟まれるおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整

① ステアリング調整レバー
② 前後位置の調整
③ 上下位置の調整

ステアリングを調整するときは、以下のことに注意してください。

- ステアリングを握ったとき、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせて、ペダルが十分に踏み込める
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

前後位置の調整をする

▶ レバー①を②の方向に操作します。

上下位置の調整をする

▶ レバー①を③の方向に操作します。

i ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます(▷70 ページ)。

イージーエントリー機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアを閉じてから、エンジンスイッチにキーを差し込む
- エンジンスイッチが **0** の位置のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- エンジンスイッチが **1** の位置のときは、運転席ドアを閉じて **2** の位置にする

この機能の設定と解除については (▷124 ページ) をご覧ください。

⚠ けがのおそれがあります

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ (▷70 ページ) を押す

ⓘ ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ミラー

事故のおそれがあります

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度を調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

事故のおそれがあります

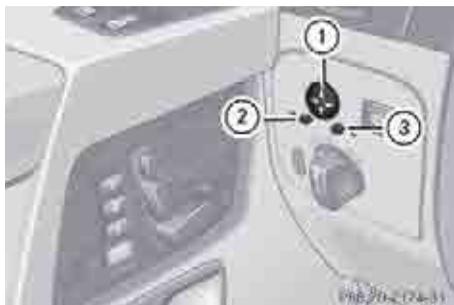
ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ⓘ より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

ⓘ ドアミラーにはヒーターが装着されています。以下のときには自動的に温められ、凍結を防ぎます。

- リアデフォッガーを使用しているとき（▷145 ページ）
- 外気温度が低く、エンジンがかかっているとき

ドアミラーの角度調整

① 調整スイッチ
② 運転席側ドアミラー選択ボタン
③ 助手席側ドアミラー選択ボタン

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整したい側のドアミラー選択ボタン②または③を押します。

▶ 調整スイッチ①を操作してドアミラーの角度を調整します。

ⓘ ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷70 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

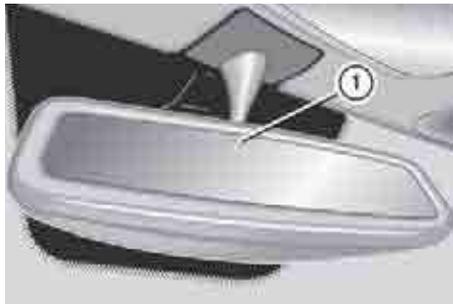
▶ 手で格納 / 展開します。

! 走行するときはドアミラーを走行時の位置に戻してください。

! ドアミラーを動かしているときは、手を挟んだり、異物が挟まらないように注意してください。

車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

自動防眩機能

① センサー

周囲が暗く、エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、ルームミラーのセンサー ① が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーとドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

⚠ けがのおそれがあります

ミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! セーフティネットを装着したときなど、ルームミラーが後続車のライトに照射されない場合は、自動防眩機能は作動しません。十分注意して走行してください。事故を起こすおそれがあります。

i セレクターレバーが **R** に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

サイドアンダーミラー

① サイドアンダーミラー

車体右側下部の視界を確保するために、サイドアンダーミラーが装備されています。

サイドアンダーミラーを収納 / 展開する

▶ サイドアンダーミラーを、いずれかの矢印の方向にまわします。

! サイドアンダーミラーを収納するときは、方向指示灯のレンズに当たらないように注意してください。ミラーやレンズを損傷するおそれがあります。

メモリー機能

シート位置の記憶

左側シート
① メモリースイッチ
② ポジションスイッチ

シート位置をポジションスイッチに記憶させることができます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、または操作する側のフロントドアが開いているときに記憶と呼び出しができます。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、ステアリングの位置（▷66 ページ）、ドアミラーの角度（▷68 ページ）も正しく調整します。

▶ メモリースイッチ①を押します。

▶ 3 秒以内に 1 ～ 3 のいずれかのポジションスイッチ②を押します。

そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

シート位置の呼び出し

⚠ 事故のおそれがあります

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

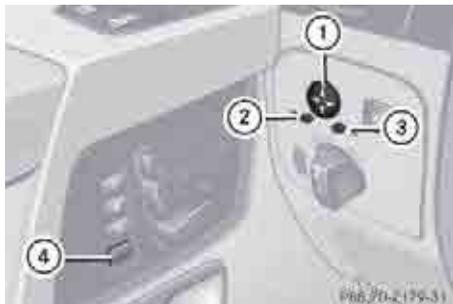
記憶させたシート位置を呼び出す

▶ 呼び出したいポジションスイッチ②の1～3のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

! バックレストを大きく後方に傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、シートなどの動きが停止します。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

① 調整スイッチ
② 運転席側ドアミラー選択ボタン
③ 助手席側ドアミラー選択ボタン
④ メモリースイッチ

セレクターレバーを R に入れたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶されていた角度になり、車両後方の視界を確保して後退を容易にします。

後退時のドアミラーの角度を記憶させる

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン③を押します。

▶ 調整スイッチ①で、後退時に後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。

▶ 運転席シートのメモリースイッチ④を押します。

▶ 約 3 秒以内に調整スイッチ①をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

ℹ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ 調整スイッチ①で走行時の角度に助手席ミラーを調整します。

! 走行する前に、後方が十分確認できるように助手席側ドアミラーの角度を調整してください。

記憶させたドアミラーの角度を呼び出す

エンジンスイッチが **2** の位置のときに作動します。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン③を押します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶されていた角度になります。

ℹ 運転席側ドアミラーが選択されているときは、この機能は働きません。

このときは、助手席側ドアミラー選択ボタンを押して、助手席側ドアミラーを選択してください。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- セレクターレバーを R の位置から他の位置に入れて約 4 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタン②を押したとき

シートベルト

シートベルトの着用

 けがのおそれがあります

- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。

 けがのおそれがあります

- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更やブレーキをかけたとき、追突したときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷37 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

 けがのおそれがあります

シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

 けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や追突時に致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトについては（▷28 ページ）もご覧ください。

フロントシート / 左右リアシート

① プレート
② 解除ボタン
③ バックル

シートベルトを着用する

- ▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。

  シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。
- ▶ シートベルトにねじれがないことを確認し、プレート①の先端をバックル③に差し込みます。
- ▶ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。
- ▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

シートベルトを外す

- ▶ 手でプレート①を持ち、バックル③の解除ボタン②を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

中央リアシート

① シートベルトホルダー
② シート左側のバックル
③ 左側バックルの解除ボタン
④ シートベルト先端のプレート
⑤ シート右側のバックル
⑥ 右側バックルの解除ボタン
⑦ プレート

シートベルトを着用する

中央リアシートには分割収納式シートベルトを装備しています。

- ▶ シートベルトホルダー①に収納されているプレート④、⑦を後方に引いて取り出します。
- ▶ シートベルトをゆっくり引き出します。
- ▶ シート左側のバックル②に、シートベルト先端のプレート④を差し込みます。
- ▶ プレート⑦を持ち、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

▶ シート右側のバックル⑤に、プレート⑦を差し込みます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

シートベルトを収納する

▶ 右側バックルの解除ボタン⑥を押しながらプレート⑦を取り外します。

▶ プレート⑦の先端またはドライバーなどで左側バックルの解除ボタン③を押しながらプレート④を取り外し、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

▶ シートベルトホルダー①にプレート④、⑦を差し込みます。

! プレート④、⑦は、シートベルトホルダー①に確実に差し込んでください。

i バックル②、⑤は、シートの切り欠き部に収納することができます。

フロントシートベルト / 左右リアシートベルトの高さ調整

① アンカー
② 解除ボタン

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは 5 段階に調整できます。

高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー①をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、解除ボタン②を引いたまま下げます。

調整後は確実にロックしていることを確認してください。

けがのおそれがあります

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトが大きな衝撃を受けたとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

- ヘッドレストの中央が目の高さにある
- バックレストはできるだけ垂直にする
- 背中はバックレストに密着させる
- シートベルトが正しく着用できる
- ペダルが楽に踏み込める
- ステアリングが楽に操作できる

事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

けがのおそれがあります

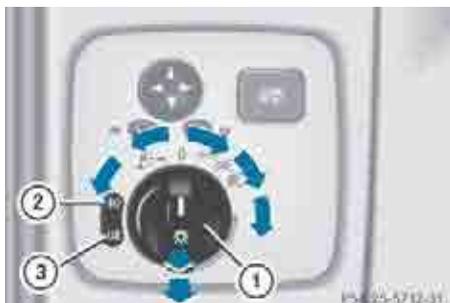
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

① ランプスイッチ
② フロントフォグランプ表示灯
③ リアフォグランプ表示灯

ランプスイッチ①をまわして各位置に合わせます。

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
Auto	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
車幅灯マーク	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
ヘッドランプマーク	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

! エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動で点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプが点灯すると、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 [ヘッドランプ] が点灯します。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を [ヘッドランプ] の位置に合わせます。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を Auto の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを 1 の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを Auto から [ヘッドランプ] の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

! ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを 0 の位置に戻して運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾗｲﾄ ｦ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。このときは必ずランプスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! ランプスイッチを [車幅灯] か [ヘッドランプ] の位置にしたまま、エンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ℹ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサーにステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

ℹ ランプスイッチが Auto の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプが自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が [フォグランプ] または [ヘッドランプ] のとき、ランプスイッチ①を 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が [フォグランプ] または [ヘッドランプ] のとき、ランプスイッチ①を 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②とリアフォグランプ表示灯③が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプスイッチが Auto の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを [ヘッドランプ] の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが **0** の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチ①を [P≡→] または [←P≡] の位置にします。

位置	作動内容
[P≡→]	右側のパーキングランプが点灯
[←P≡]	左側のパーキングランプが点灯

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（▷120 ページ）をご覧ください。

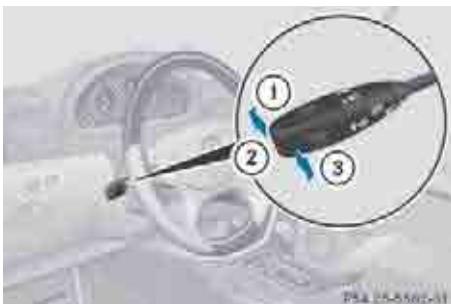
車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを再度 **2** の位置にします。

ⓘ 車外ランプが消灯するまでの時間は、ドアまたはテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

ⓘ エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後にランプは消灯し、この機能は解除されます。

ⓘ この機能は、ランプが消灯してから約10分以上経過すると働かなくなります。

ヘッドランプの下向き / 上向きの切り替え

① 上向き
② 下向き
③ パッシング

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを②の位置にします。

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを①の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

パッシングする

▶ エンジンスイッチが **1** または **2** の位置のときに、コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きで点灯します。

また、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと②の位置に戻ります。

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ℹ コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

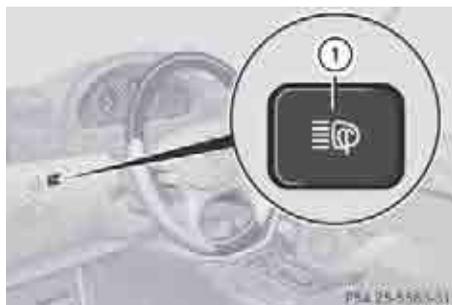
! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

ℹ 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。

方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ℹ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ヘッドランプウォッシャー

① ヘッドランプウォッシャースイッチ

ヘッドランプウォッシャーを作動させる

エンジンスイッチが 2 の位置のときに作動します。

▶ ヘッドランプウォッシャースイッチ①を押します。

! ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

ℹ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ℹ エンジンがかかっていて、車幅灯が点灯しているときに、フロントウインドウのウォッシャー（▷87ページ）を約 5 回作動させると、ヘッドランプウォッシャーが作動します。

コーナリングランプ

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のとき
- ヘッドランプが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

ℹ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。

ℹ フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。

ルームランプ

① リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ
② 読書灯（右側）
③ 読書灯（右側）スイッチ
④ フロントルームランプ
⑤ ルームランプスイッチ（常時消灯モードの位置）
⑥ ルームランプスイッチ（自動点灯モードの位置）
⑦ ルームランプスイッチ（点灯の位置）
⑧ 読書灯（左側）スイッチ
⑨ 読書灯（左側）

ルームランプの点灯 / 消灯

ルームランプを自動点灯モードにする

▶ ルームランプスイッチを自動点灯モードの位置⑥にします。

周囲が暗いときに以下の操作をすると、ルームランプが点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については（▷121 ページ）をご覧ください。

- リモコン操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

- フロントドアを開くとフロントルームランプ④が点灯します。

  リアドアを開くとリアルームランプ⑬（▷83 ページ）が点灯します。

  ◇ エンジンスイッチが **2** の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇ エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

- テールゲートを開くとラゲッジルームランプが点灯します。

  テールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  テールゲートを開いたままのときは約 10 分後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

ルームランプを常時消灯モードにする

▶ ルームランプスイッチを常時消灯モードの位置⑤にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する
- ドアを開く
- テールゲートを開く

ルームランプを手動で点灯する

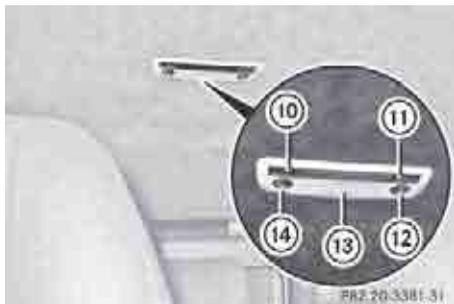
▶ ルームランプスイッチを点灯の位置⑦にします。

フロント読書灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ③または⑧を押します。

読書灯②または⑨が点灯 / 消灯します。

リアルームランプ

⑩ 読書灯（右側）スイッチ
⑪ 読書灯（左側）スイッチ
⑫ 読書灯（左側）
⑬ リアルームランプ
⑭ 読書灯（右側）

リアルームランプを点灯 / 消灯する

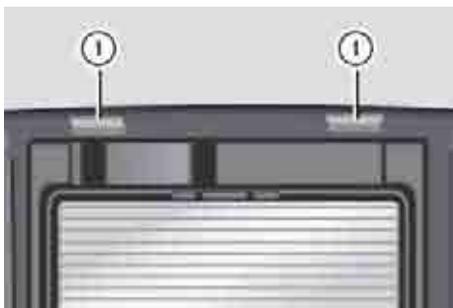
▶ エンジンスイッチが **2** の位置のとき、リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ①（▷82 ページ）を押します。

リア読書灯

リア読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ⑩または⑪を押します。

読書灯⑫または⑭が点灯 / 消灯します。

ラゲッジルームランプ

① ラゲッジルームランプ

ルームランプが自動点灯モード（▷000 ページ）で周囲が暗いときにテールゲートを開くと点灯します。

また、エンジンスイッチが **2** の位置のとき、リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ①（▷82 ページ）を押すと、点灯 / 消灯します。

ラゲッジルームランプの消灯

長時間テールゲートを開いたままにするときは、バッテリーあがりを防ぐために、ラゲッジルームランプを消灯してください。

② ロックプレート
③ テールゲートハンドルのキーシリンダー

▶ テールゲートのロックプレート②を矢印の方向にいっぱいまでまわします。

ラゲッジルームランプが消灯します。

▶ 再度ラゲッジルームランプを点灯するときは、テールゲートハンドルのキーシリンダー③を押します。

! テールゲートを閉じる前には、必ずテールゲートハンドルのキーシリンダーを押し、ロックプレートを元の位置（イラストの位置）に戻してください。

ロックプレートが下方にロックされた状態でテールゲートを閉じようとすると、ロックプレートがボディのロック部に当たり、ロックプレートやボディのロック部などを損傷するおそれがあります。

乗降用ランプ

ドア下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプが自動点灯モードのときに、ドアを開くと点灯します。

ドアミラーランプ

ロケイターライティング機能（▷56ページ）として作動します。

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると点灯し、フロントドアを開くと開いた側のドアミラーランプが消灯します。フロントドアを開かない場合は、約 40 秒後に消灯します。

ステップカバーランプ

① ステップカバーランプ

フロントドアを開くと点灯します。

フロントドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

i G 55 AMG long は、リアのステップカバーにもランプを装備しています。

リアドアを開くと約 5 分間点灯します。

ワイパー

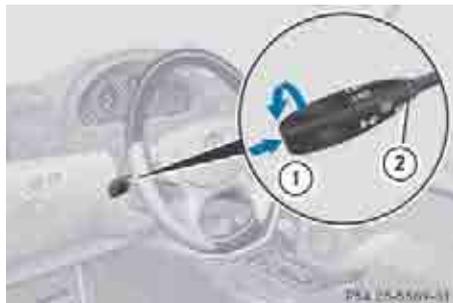
! ワイパーやウインドウウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! ウインドウを拭くときなどは、必ずワイパーを停止してください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。ウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。

! 寒冷時にはワイパーブレードがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

フロントワイパー

① ティップ機能 / ウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

フロントワイパーを作動させる

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク②を **I** ～ **III** に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
I	AUTO モード
II	低速モード
III	高速モード

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが **I** ～ **III** の位置のままエンジンスイッチを **1** の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! ワイパーを使用する必要がないときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の乱反射などでレインセンサーが誤作動し、フロントウインドウが濡れていないときでもワイパーが作動することがあります。

i AUTO モードは、レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。

i コンビネーションスイッチが **II**、**III** の位置のときも、停車時またはごく低速での走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

i AUTO モードのときは、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが **P** または **N** に入っているときは、フロントドアを閉じてセレクターレバーを他の位置に入れたとき
- セレクターレバーが **D** または **R** に入っているときは、フロントドアを閉じたとき

i フロントワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

i コンビネーションスイッチが **I** の位置のとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、フロントウインドウが濡れていなくてもフロントワイパーが 1 回作動します。

i コンビネーションスイッチを **I** の位置にすると、フロントワイパーが 1 回作動します。

i ボンネットが開いているときはフロントワイパーは作動しません。

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずにワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウインドウウォッシャーを噴射させる

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに、コンビネーションスイッチを矢印①の方向にいっぱいまで押します。

押している間、ウインドウウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

i エンジンがかかっていて車幅灯が点灯しているときに、フロントのウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが作動します。

レインセンサー

③ レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサー③があります。

! レインセンサーの上にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

リアワイパー

① リアワイパースイッチ
② リアウインドウウォッシャースイッチ
③ 表示灯

リアワイパーを作動させる

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに作動します。

▶ リアワイパースイッチ①を押します。

リアワイパーが間欠モードで作動し、スイッチの表示灯③が点灯します。

停止するときは、再度リアワイパースイッチを押します。

リアウインドウウォッシャーを作動させる

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに作動します。

▶ リアウインドウウォッシャースイッチ②を押します。

ウォッシャー液が噴射され、リアワイパーが数回作動します。

i フロントワイパーが作動しているときに、セレクターレバーを **R** に入れると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速または高速作動のとき

  低速で作動します。

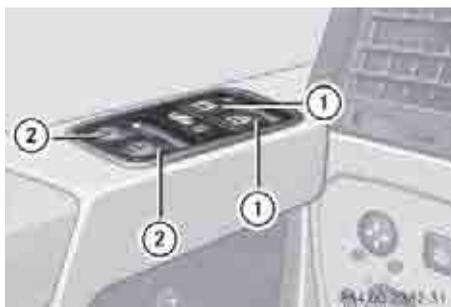
パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

⚠ けがのおそれがあります

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアドアやテールゲート、リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

運転席ドアのスイッチ
① フロントドアウインドウスイッチ
② リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウスイッチがあります。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチ①または②を軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチ①または②をいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチ①または②を引きます。

押している間だけ閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、すべてのドアウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

ⓘ ドアウインドウが自動で開いているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

ⓘ 運転席ドアのスイッチで助手席またはリアドアのドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアまたはリアドアのスイッチは操作できません。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウを開閉することができます。

ⓘ 運転席ドアのチャイルドプルーフロックスイッチで、リアドアにあるリアドアウインドウスイッチを操作できなくすることができます（▷43ページ）。

ドアウインドウが自動で開かないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたときは、ドアウインドウが自動で開かなくなることがあります。

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ スイッチを引いて全閉にし、そのまま約 2 秒以上保持します。

この操作を他のドアウインドウでも行なってください。再び、ドアウインドウが自動で開くようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

コンビニエンスオープニング

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを開くことができます。

① ドアハンドル
② 解錠ボタン

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドル ① に向けて、キーの解錠ボタン ② を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを開閉するときは、必ず運転席ドアハンドルに向けて操作してください。車の前方または後方から操作すると作動しません。

コンビニエンスクロージング機能

車から降りた後に、リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを閉じることができます。

⚠ けがのおそれがあります

リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに身体や物が挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンから手を放し、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとスライディングルーフを開いてください。

① ドアハンドル
② 施錠ボタン

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドル ① に向けて、キーの施錠ボタン ② を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

施錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! ドアウインドウやスライディングルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

走行と停車

エンジンの始動

事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

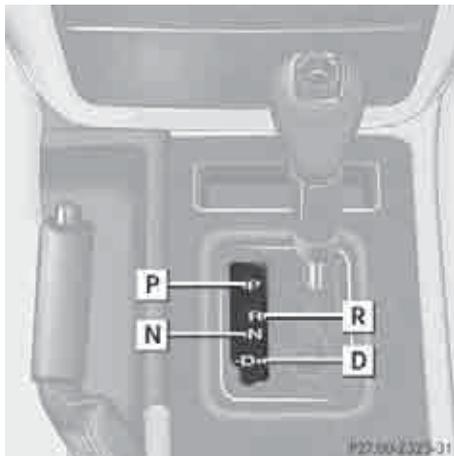
フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。また、フロアマットを重ねて使用しないでください。ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

中毒のおそれがあります

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

シフト位置

シフト位置

シフト位置	
P パーキング	駐車およびエンジン始動／停止の位置
R リバース	後退するときの位置
N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
D ドライブ	走行するときの位置 1速～5速（7G-TRONIC装備車は1速～7速）の範囲で自動的に変速します。

車両の操作

エンジンを始動する

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが **P** に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

! エンジンは、セレクターレバーが **N** に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを **P** に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

ⓘ ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

発進

⚠ **事故のおそれがあります**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

! セレクターレバーを **R** に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

ⓘ エンジンスイッチが **2** の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを **P** から動かすことはできません。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを **D** または **R** に入れます。

ⓘ ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

ヒルスタートアシスト

上り坂での発進時に車が後退するのを防ぎ、発進を容易にします。

また、上り坂を後退して登るときは発進時の前進も防ぎます。

事故のおそれがあります

ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを **P** に入れてください。

ヒルスタートアシストを作動させる

▶ 上り坂での発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退するのを防ぎます。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 水平な路面、または下り坂で発進するとき
- セレクターレバーが **N** に入っているとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP が故障して解除されているとき

駐車

事故のおそれがあります

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

火災のおそれがあります

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

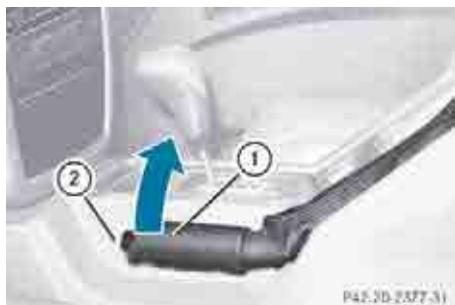
! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフを閉じて、車を施錠してください。

パーキングブレーキ

事故のおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

火災のおそれがあります

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

① パーキングブレーキレバー
② 解除ノブ

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏みます。

▶ パーキングブレーキレバー①を少し引き上げ、解除ノブ②をいっぱいまで押し込んでからパーキングブレーキレバーを下げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ パーキングブレーキレバー①を引き上げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

i 急な坂道に駐車するときは、前輪を歩道方向に向けてください。

i パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンの停止

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキレバーを確実に引き、セレクターレバーを **P** に入れます。

事故のおそれがあります

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! セレクターレバーが **P** 以外に入っているときもエンジンを停止できますが、必ずパーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを **P** に入れてください。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

オートマチックトランスミッション

事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

停車中は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

シフト位置の選択

① セレクターレバー

▶ セレクターレバー①を動かして、シフト位置を選択します。

! シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んでください。

i エンジンスイッチが **2** の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないときは、セレクターレバーを P から動かすことができません。

シフト位置

シフト位置	作動内容
P パーキング	駐車およびエンジン始動／停止の位置
R リバース	後退するときの位置
N ニュートラル	動力が伝わらない位置押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
D ドライブ	走行するときの位置 1 速～ 5 速（7G-TRONIC 装備車は 1 速～ 7 速）の範囲で自動的に変速します。

事故のおそれがあります

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こすおそれがあります。また、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

シフト位置表示

① シフト位置表示
（ドライブに入っている状態）

エンジンスイッチを **2** の位置にすると、マルチファンクションディスプレイのシフト位置表示①に、選択されたシフト位置が反転して表示されます。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要に変速しないようにすることができます。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

① 低いギアレンジを選択
② 高いギアレンジを選択

③ ギアレンジ表示

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが **D** に入っているときにセレクターレバーを①側に操作します。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジがマルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示③に表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを①側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを②側に操作します。

ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを②側に操作して保持します。

ギアレンジ表示③に "D" が表示されます。

ギアレンジ	
D	1 速 ～ 5 速（7G-TRONIC 装備車は 1 速～ 7 速）の範囲で自動的に変速します。
6 ＊	1 速～ 6 速の範囲で自動的に変速します。
5 ＊	1 速～ 5 速の範囲で自動的に変速します。
4	1 速～ 4 速の範囲で自動的に変速します。
3	1 速～ 3 速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1 速～ 2 速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

i ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

i 加速時にエンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

i エンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、低いギアレンジを選択できません。

i エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

i ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

i ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを②側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

! クロスカントリーギアになっているときは、自動的に高いギアレンジが選択されないことがあります。エンジンの許容回転数を超えないように注意してください。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを **D** に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを **P** に入れます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが **D** か **R** に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

クロスカントリーギア

急勾配の走行や渡河時、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合は、トランスファーをクロスカントリーギアにします。

クロスカントリーギアにすると、駆動力が強くなり、クロスカントリーギアを解除しているときに比べて速度が約1/2になります。

クロスカントリーギアの操作

① トランスファースイッチ

クロスカントリーギアにする

▶ エンジンがかかっていて、約 40km/h 以下で走行しているときに、セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ トランスファースイッチ①の "LOW" を押します。

② トランスファー表示

クロスカントリーギアになると、トランスファー表示②に "L" と表示されます。

クロスカントリーギアを解除する

▶ エンジンがかかっていて、約 70km/h 以下で走行しているときに、セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ トランスファースイッチ①の "HIGH" を押します。

クロスカントリーギアが解除されると、トランスファー表示②に "H" と表示されます。

! マルチファンクションディスプレイに " ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽ / ｼﾌﾄ ｼﾞｮｳｹﾝ ﾌｼﾞｭｳﾌﾞﾝ " などと表示された場合は、トランスファーの切り替えが行なわれていません。セレクターレバーの位置や走行速度、トランスファーがニュートラルになっていないことを確認し、再度操作を行なってください。

! マルチファンクションディスプレイに " ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ " と表示された場合は、システムが故障しています。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

けん引されるとき

けん引されるときなどは、駆動装置の損傷を避けるため、トランスファーをニュートラルにします。

ニュートラルにする

▶ エンジンを停止します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ トランスファースイッチ①の "LOW" を約 5 秒以上押します。

トランスファー表示②に "N" と表示されます。

ニュートラルを解除する

▶ エンジンを停止します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ トランスファースイッチ①の "HIGH" を約 5 秒以上押します。

トランスファー表示②に "H" と表示され、トランスファーが接続されます。

または

▶ トランスファースイッチ①の "LOW" を約 5 秒以上押します。

トランスファー表示②に "L" と表示され、トランスファーが接続されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

駐車するときは、トランスファーをニュートラルにしないでください。オートマチックトランスミッションのセレクターレバーが P に入っていても、トランスファーが固定されないため、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

ℹ トランスファーがニュートラルのとき、パーキングブレーキが解除された状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽ ﾆｭｰﾄﾗﾙ " と表示されます。

ディファレンシャルロック

ディファレンシャルロックは、センターデフ、リアデフ、フロントデフをロックすることにより、空転した車輪以外の車輪に駆動力を伝える機能です。

以下のときにスイッチを操作して、ディファレンシャルロックをオンにしてください。

- 岩石路や脱輪時など、片輪が宙に浮き、走行できなくなったとき
- 片輪が雪上にあり、他の車輪がアスファルト上などで脱出できなくなったとき

脱出後は、ただちにディファレンシャルロックを解除してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 緊急時の脱出以外は、雪道や凍結路でディファレンシャルロックを使用しないでください。またディファレンシャルロックをオンにしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり事故を起こすおそれがあります。
- ディファレンシャルロックをオンにしたまま舗装道路や固い路面を走行しないでください。差動機構がロックされて左右輪が等速で回転するため、旋回時でも直進しようとする力が強く作用し、急激に直進状態に戻ることがあり、事故を起こすおそれがあります。

! ディファレンシャルロックは緊急時の脱出などに使用した後はただちに解除してください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

! 車を一軸シャシーダイナモ上で動かすときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、短時間であっても駆動アクスル以外を持ち上げるか、プロペラシャフトを外してください。このとき、センターディファレンシャルロックを必ずオンにしてください。トランスファーケースを損傷するおそれがあります。

ディファレンシャルロックスイッチ

① センターディファレンシャルロックスイッチ
② リアアクスルディファレンシャルロックスイッチ
③ フロントアクスルディファレンシャルロックスイッチ
④ 表示灯（黄色）
⑤ 作動表示灯（赤色）

ディファレンシャルロックをオンにする

ディファレンシャルロックは、センター→リアアクスル→フロントアクスルの順序でのみ、作動させることができます。

▶ 車輪が空転していないときに、車輪を直進状態にしてから、オンにするディファレンシャルロックのスイッチを押します。

スイッチの下側の表示灯④と ESP 表示灯 ⚠ が点灯します。

ディファレンシャルロックが機械的に作動すると、ABS、ESP、BAS、4ETS の機能が解除されます。

また、スイッチ上側の作動表示灯⑤と ABS 警告灯 (ABS) も点灯し、マルチファンクションディスプレイに "ABS ｼｮｳﾌｶﾉｳ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｽ DIFFERENTIAL LOCK" と表示されます。

! ディファレンシャルロックをオンにするときは、速度を歩く程度まで落としてください。

! ディファレンシャルロックをオンにするときは、必ず車輪が空転していないことを確認してください。車輪が空転しているときにオンにすると、車が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。

i スイッチを押してから機械的に作動するまでは、若干の時間と多少の走行距離が必要な場合があります。

ディファレンシャルロックを解除する

▶ 車輪を直進状態にしてから、ディファレンシャルロックのスイッチを押します。

スイッチ下側の表示灯が消灯します。

ディファレンシャルロックが機械的に解除されると、ABS、ESP、BAS、4ETS が待機状態になります。

また、スイッチ上側の作動表示灯とESP 表示灯 ⚠ 、ABS 警告灯 (ABS) が消灯し、マルチファンクションディスプレイの表示が消えます。

ディファレンシャルロックを解除しても作動表示灯が消灯しないときは、ディファレンシャルロックが解除されていません。

このときは、路面と天候の状態に合わせて運転し、ステアリング操作をゆっくり行なってください。

しばらく走行すると、作動表示灯が消灯し、ディファレンシャルロックが解除されます。

! ディファレンシャルロックを解除しても作動表示灯が消灯しないときは、ステアリングを大きくまわさないでください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

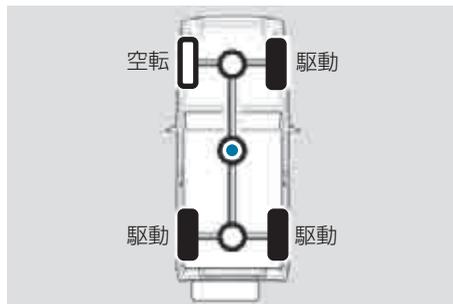
i ディファレンシャルロックは、ロックするときとは逆の順序で解除されます。

i リアアクスルのディファレンシャルロックを解除すると、フロントアクスルディファレンシャルロックが自動的に解除されます。

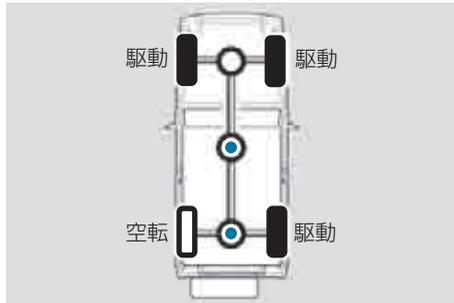
i センターディファレンシャルロックを解除すると、すべてのディファレンシャルロックが自動的に解除されます。

i スイッチを押してから機械的に解除されるまでには、若干の時間差があります。

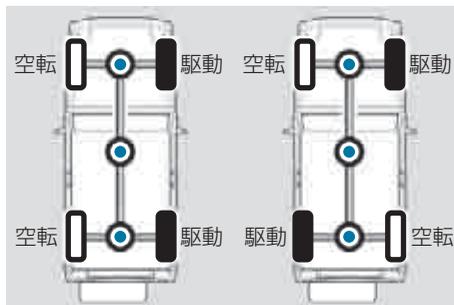
ディファレンシャルロックの使いかた

前輪の片側が空転しているとき

センターディファレンシャルロックをオンにします。

後側の 2 輪に駆動力が伝わります。

後輪の片側が空転しているとき

センターディファレンシャルロックとリアアクスルディファレンシャルロックをオンにします。

空転していない他の 3 輪（前側の 2 輪と後輪の片輪）に駆動力が伝わります。

前後輪の片側が空転しているとき

すべてのディファレンシャルロック（センターディファレンシャルロック、リアアクスルディファレンシャルロック、フロントアクスルディファレンシャルロック）をオンにします。

空転していない他の 2 輪（前輪の片側と後輪の片側）に駆動力が伝わります。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷22 ページ）をご覧ください。

⚠ 事故のおそれがあります

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、すみやかに指定サービス工場に連絡してください。

マルチファンクションディスプレイの表示

時刻や外気温度、各種設定画面、故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき（エンジンスイッチを **0** の位置にするか、キーを抜いてから約 30 秒後に消灯）
- 車外ランプが点灯したとき（車外ランプが消灯してから約 30 秒後に消灯）

詳しくは（▷107 ページ）をご覧ください。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

メーター照度調節ボタン / リセットボタン

① メーター照度調整ボタン / リセットボタン

メーターの照度を調節する

メーターパネルの照明が点灯しているときに明るさを調整できます。

▶ ボタン①を時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

トリップメーターや各種設定をリセットする

▶ ボタン①を押します。

冷却水温度計

エンジン冷却水の温度を表示します。

ℹ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ℹ 暑い日や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷217、218 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。加えて、マルチファンクションディスプレイに "ｿｳｺｳｶﾉｳ : – R – km" と表示されます（▷126 ページ）。

警告灯が点灯したときの残量は約 13 リットルです。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

燃料給油口位置表示

燃料給油口の位置を表示しています。

燃料給油口は、車体右側後部にあります。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約 96 リットルです。

❗ 給油のときはエンジンを停止してください。

スピードメーター

車の走行速度を km/h で表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

環　境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示･設定するシステムです。

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

 事故のおそれがあります

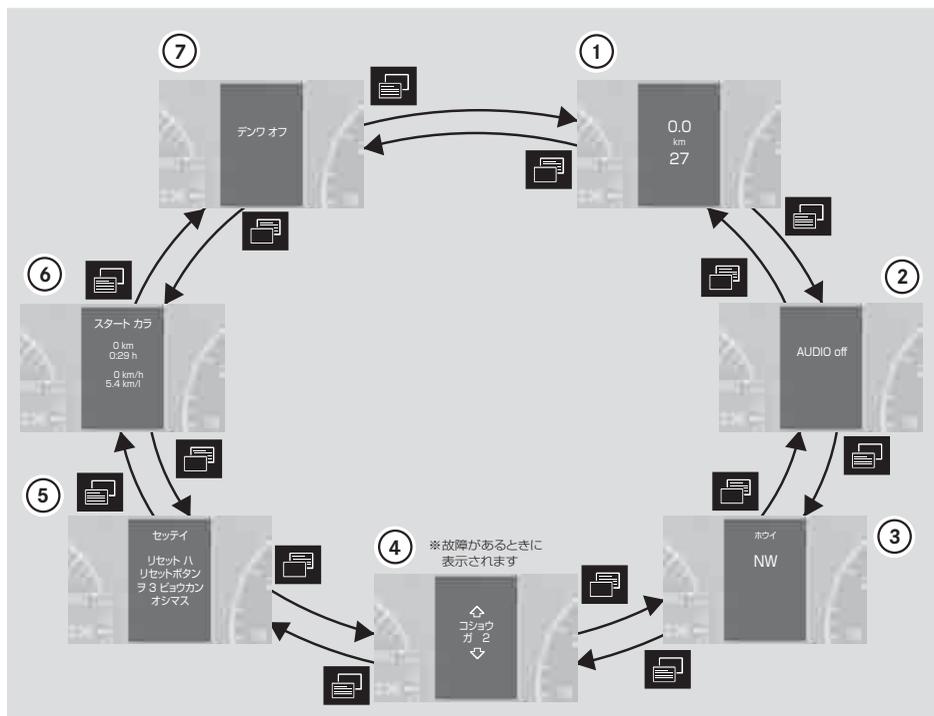
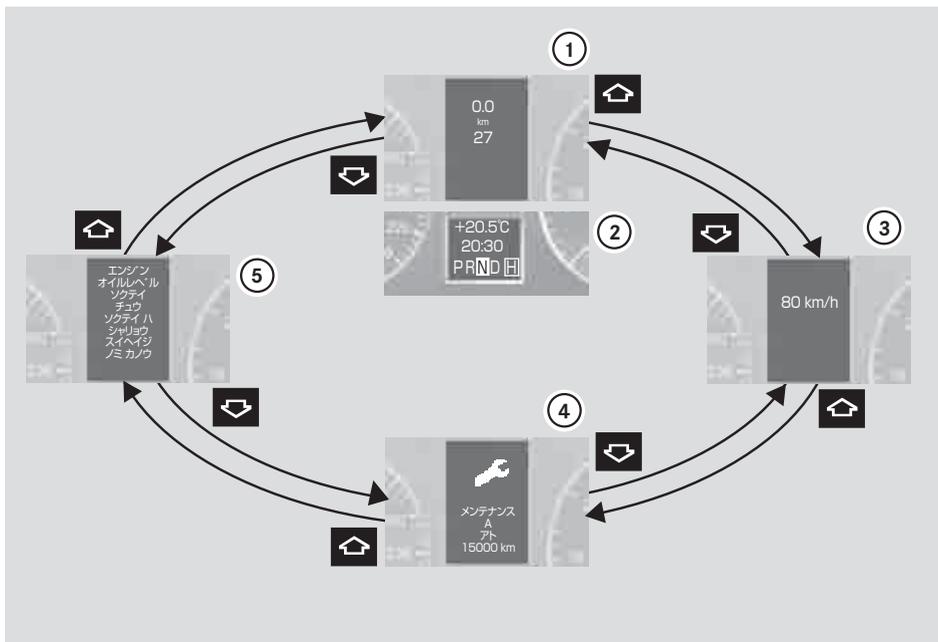
マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

 事故のおそれがあります

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

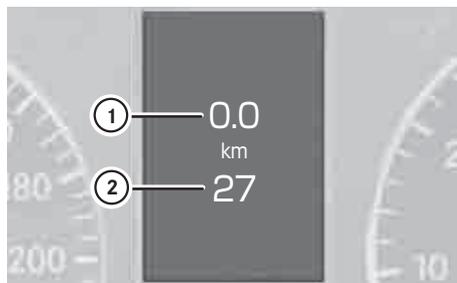
	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**設定スイッチ / 音量スイッチ** ＋ － 各種設定の設定グループ選択画面でグループを選択します。また、設定項目画面で数値や設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。
③	**通話開始スイッチ / 通話終了スイッチ** 電話を受信 / 保留 / 切断できます。
④	**表示切り替えスイッチ** メイン画面を選択します。
⑤	**スクロールスイッチ** 選択したメイン画面内の各画面を切り替えます。

※電話の操作については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

メイン画面一覧

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

①	車両情報メイン画面(トリップメーター/オドメーター)	110
②	車両情報サブ画面(外気温度表示/走行速度表示/時計表示/可変スピードリミッターの設定速度表示/シフト位置表示/ギアレンジ表示/トランスファー表示)	110
③	走行速度/外気温度表示画面	111
④	メンテナンスインジケーター画面	199
⑤	エンジンオイル量点検画面＊	170

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

① トリップメーター
② オドメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

トリップメーター

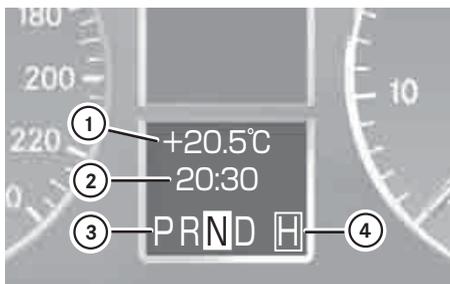
リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（▷105 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

車両情報サブ画面

① 外気温度表示 / 走行速度表示
② 時刻表示 / 可変スピードリミッターの設定速度表示
③ シフト位置表示 / ギアレンジ表示
④ トランスファー表示

外気温度表示 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メーター " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷117 ページ）で行ないます。

⚠ 事故のおそれがあります

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

i 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

時刻表示 / 可変スピードリミッターの設定速度表示

時刻または可変スピードリミッターで設定した速度を表示します。

ℹ 可変スピードリミッターについて、詳しくは（▷130 ページ）をご覧ください。

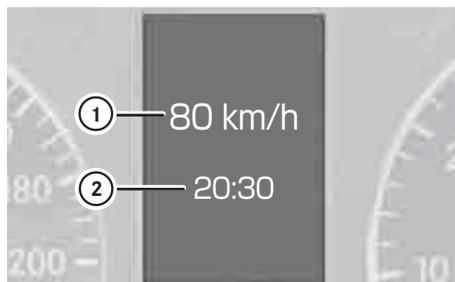
シフト位置表示 / ギアレンジ表示

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します（▷91、96 ページ）。

また、ティップシフト（▷97 ページ）にしたときのギアレンジを表示します。

トランスファー表示

トランスファーの位置を表示します（▷100 ページ）。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度 / 外気温度表示
② 時刻表示

走行速度 / 外気温度表示①は、走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メーター " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷117 ページ）で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます（▷110 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

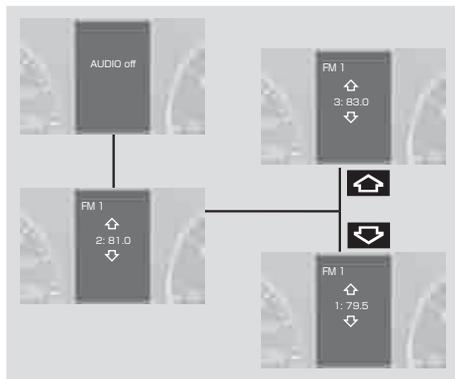
ℹ 各種設定の " メーター " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷117 ページ）で " ガイキオン " を選択すると、この画面は走行速度表示になります。

" 車両情報サブ画面の表示設定画面 " で " ソクド " を選択すると、この画面は外気温度表示になります。

ℹ 時刻表示②が表示されるのは、車両情報サブ画面に可変スピードリミッターの設定速度が表示されているときだけです。

ℹ 走行速度の表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷117 ページ）。

オーディオ

オーディオやテレビ、DVD ビデオなどの使用時にそれぞれの情報を表示します。

ラジオ使用時の例

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ または を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

オーディオのメイン画面表示中に、 または を押すと、各ソースの選局 / 選曲などができます。

音量調節

▶ ＋ または − を押すと、音量を調節できます。

ℹ 各種設定の設定グループ選択画面や設定項目画面を表示しているときは、音量の調節はできません。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

ナビゲーション・進行方向方位表示

COMAND システムのナビゲーション機能でルート案内を行なっているときに、進行方向や通過点、交差点（分岐点）までの距離などを表示することができます。

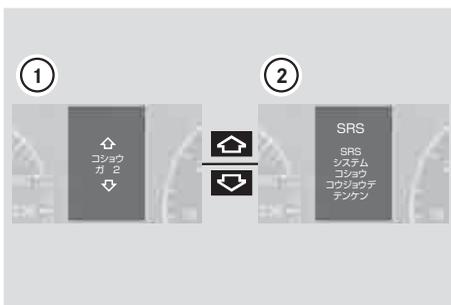
ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる

▶ または を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させます。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障表示

故障表示画面

①	故障件数画面 （この例では、2 件故障があります）
②	故障 / 警告メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

ⓘ 故障や異常がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージ画面が自動的に表示されます。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージ画面が約 5 秒間隔で順番に表示されます。

ステアリングの や 、またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

故障メッセージを手動で確認する

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに表示できます。

▶ または を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

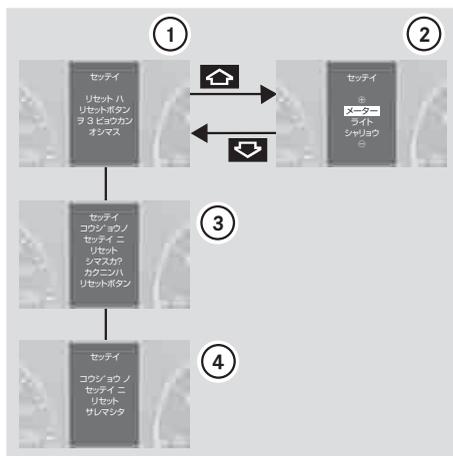
▶ または を押して、故障 / 警告メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを **0** の位置にすると、故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

! 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷211 ページ）をご覧ください。

各種設定

①	各種設定メイン画面	114
②	設定グループ選択画面	114
③	各種設定項目の初期化画面	115
④	各種設定項目の初期化完了画面	115

! 走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させせます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に ⇧ を押して、設定グループ選択画面を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、⇧ を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定項目画面を選択する

選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ [▲] または [▼] を押して、設定項目画面を選択します。

数値や設定を変更する / 機能のオン / オフを選択する

▶ [+] または [−] を押して、数値や設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

各種設定項目の初期化

初期化画面

各グループ内のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [ ] または [ ] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷114 ページ）。

▶ リセットボタン（▷105 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

上記の初期化画面が約 5 秒間表示されます。

初期化完了画面

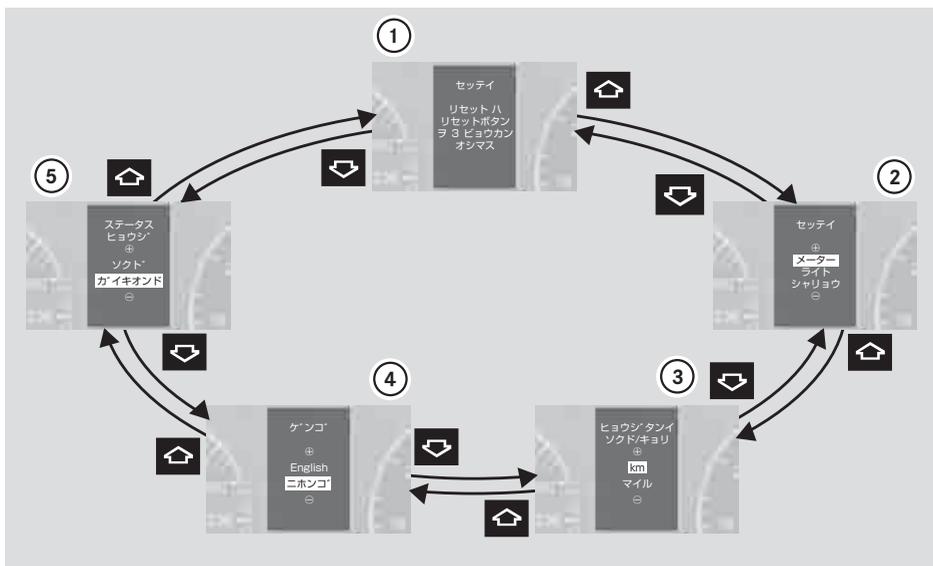
▶ 初期化画面が表示されている間に、再度リセットボタンを押します。

初期化が実行され、上記の初期化完了画面が表示されます。

ⓘ 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。

ⓘ 走行中に初期化操作を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メーター

①	各種設定メイン画面	114
②	設定グループ選択画面	114
③	速度・距離単位設定画面	117
④	ディスプレイ言語設定画面	117
⑤	車両情報サブ画面の表示設定画面	117

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷114 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [⇧] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" メーター " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⇧] を押します。

メーターの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

速度・距離単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
マイル	表示が mph、マイル / mi になります。

! 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

ⓘ この画面で設定した言語を COMAND システムにも適用できます。詳細については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。

車両情報サブ画面の表示設定画面

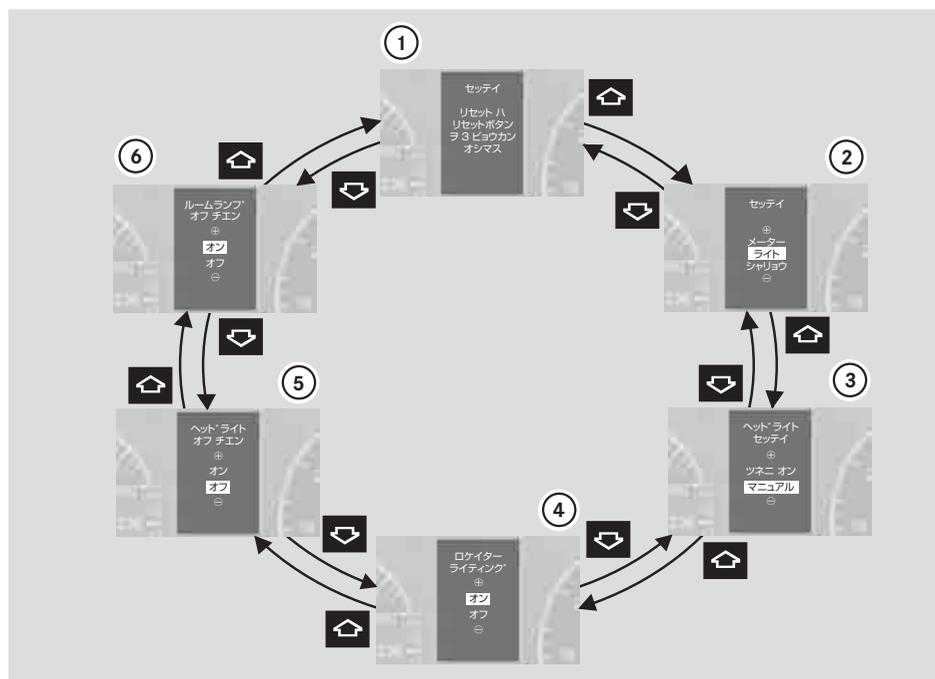
車両情報サブ画面（▷110 ページ）に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示	設定内容
ソクド	車両情報サブ画面の表示が走行速度になります。
ガイキオンド	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。

ⓘ 車両情報サブ画面の表示を切り替えると、走行速度 / 外気温度表示画面（▷111 ページ）の表示も切り替わります。

ライト

①	各種設定メイン画面	114
②	設定グループ選択画面	114
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	119
④	ロケイターライティング設定画面	120
⑤	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	120
⑥	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	121

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [button] または [button] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます (▷114 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [⇧] を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" ライト " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⇧] を押します。

ライトの最初の設定項目画面が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ツネニ オン	常時点灯モードです。ランプスイッチが [0] か [Auto] のときに、エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。
マニュアル	手動点灯モードです。ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。日本ではこのモードに設定してください。

! 設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに " ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ " と表示されます。

i 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

i 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷56 ページ）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷78 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

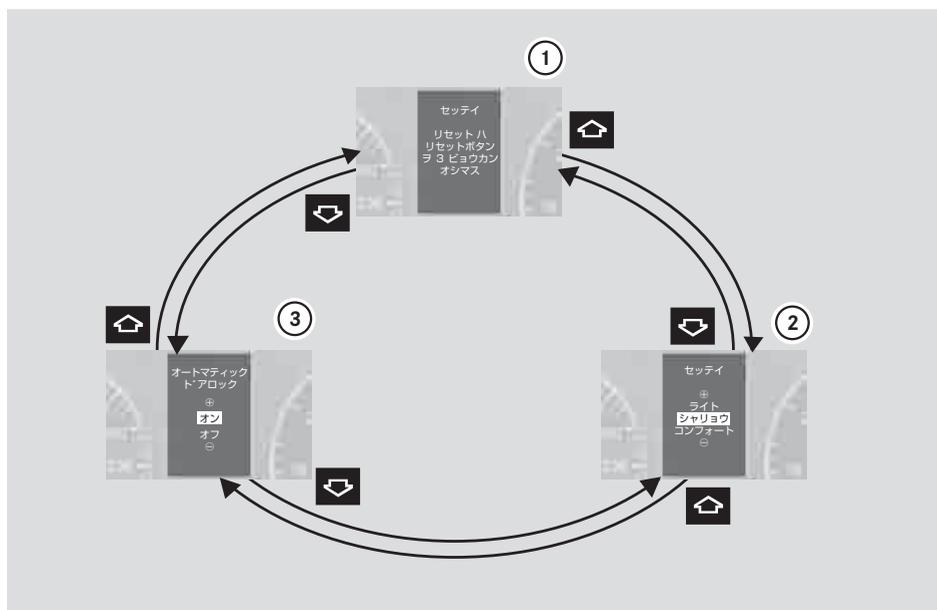
ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷82 ページ）をご覧ください。

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	114
②	設定グループ選択画面	114
③	車速感応ドアロック設定画面	122

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます(▷114 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [ボタン] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" シャリョウ " を選択します。

▶ [ボタン] を押します。

シャリョウの設定項目画面が表示されます。

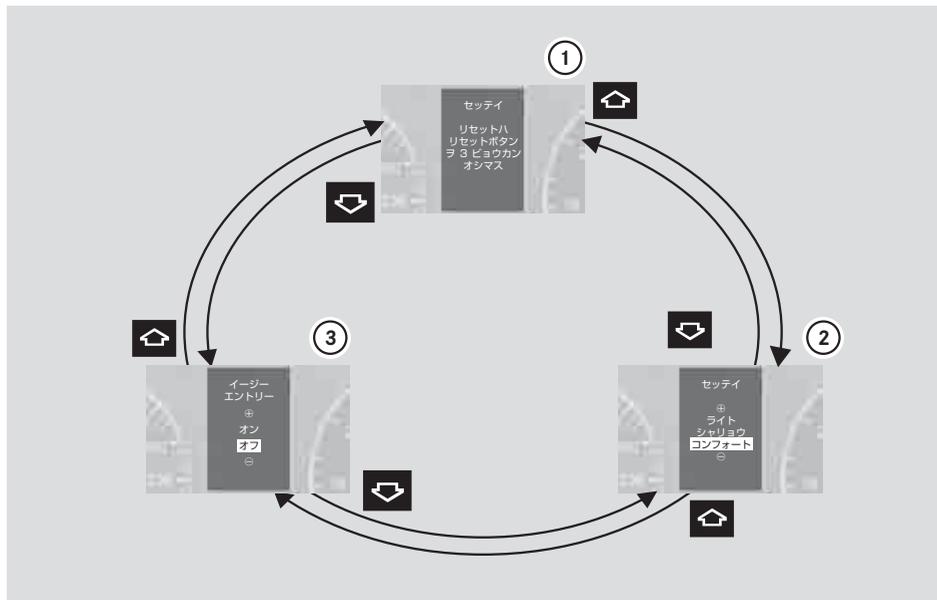
車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷57 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

コンフォート

①	各種設定メイン画面	114
②	設定グループ選択画面	114
③	イージーエントリー設定画面	124

設定グループ選択画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます(▷114 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に ⇧ を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ ⇧ を押します。

コンフォートの設定項目画面が表示されます。

イージーエントリー設定画面

けがのおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開くとイージーエントリーが作動し、けがをするおそれがあります。
- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

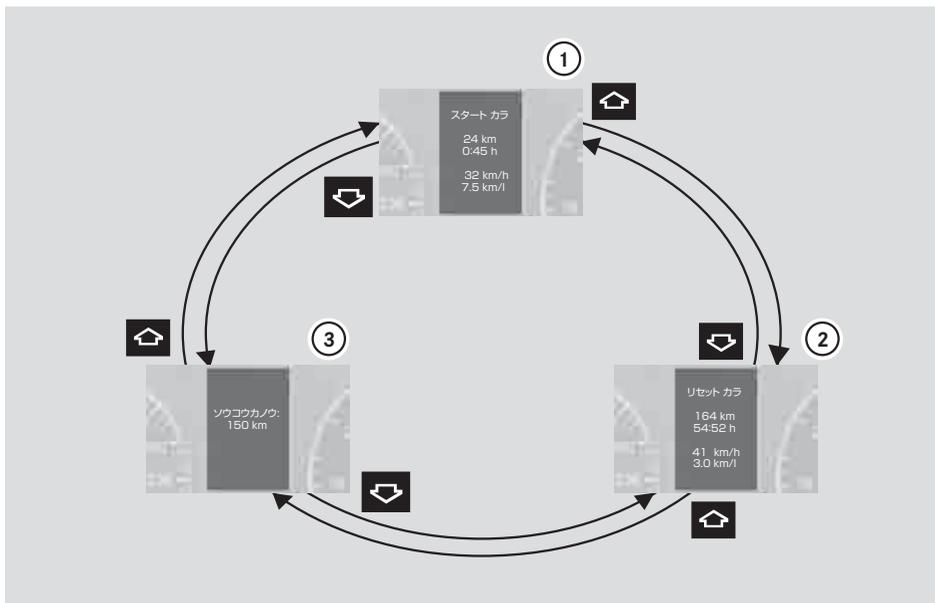
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリーの設定ができます。

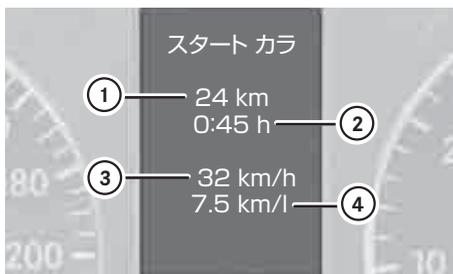
▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イージーエントリーが作動します。
オフ	イージーエントリーは作動しません。

詳しくは（▷67 ページ）をご覧ください。

トリップコンピューター

①	ショートトリップメーター画面	125
②	ロングトリップメーター画面	125
③	走行可能距離画面	126

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します。

エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、またはキーを抜いてから約 4 時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ショートトリップメーター画面を表示させる

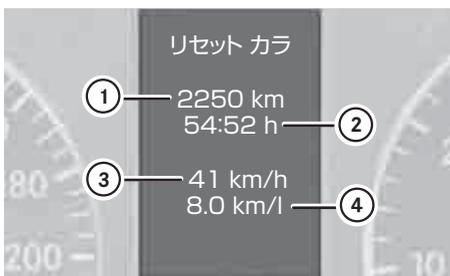
▶ または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

ショートトリップメーターは手動でリセットすることもできます。

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、リセットボタン（▷105 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ⓘ ショートトリップメーターは、リセットしてから 999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点として情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

▶ を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、リセットボタン（▷105 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ⓘ ロングトリップメーターは、リセットしてから 9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷125 ページ）。

▶ ［▽］を押して、走行可能距離画面を表示させせます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値であり、今後の走行状況に応じて大きく変動することがあります。

燃料残量が少ないときは、以下のメッセージが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

電話

電話画面を表示させる

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、電話画面を表示させせます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ［通話開始］を押します。

電話を受信できます。

通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチ［通話終了］を押します。

電話を切断できます。

電話帳からの発信

COMAND システムの電話帳に登録してある番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、［△］または［▽］を押して、発信先を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ［通話開始］を押します。

※ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

クルーズコントロール / 可変スピードリミッター

走行速度を制御する機能です。

パークトロニック

車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。

オフロード走行については、「オフロードでの走行」（▷193 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

事故のおそれがあります

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

事故のおそれがあります

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 急な下り坂､急カーブ､曲がりくねった道路を走行しているとき
- 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路を走行しているとき
- 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できないとき

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷220 ページ）をご覧ください。

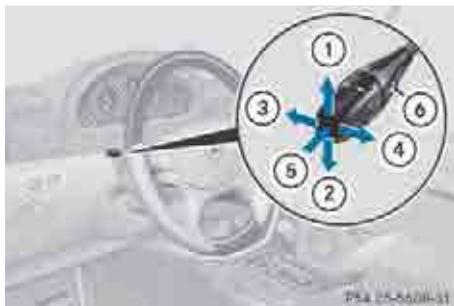
! 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択しエンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（▷130 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている設定速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

ⓘ クルーズコントロールの設定速度の表示とスピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

ⓘ 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度で走行を再開します。

ⓘ クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

ⓘ 以下のときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

◇ 走行速度が約 30km/h 以下のとき

◇ ESP の機能が解除されているとき

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げ続けます。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に下げ続けます。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ レバーを②の方向に下げて減速しているときに、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ 以下のときは、クルーズコントロールは自動的に解除されます。

- セレクターレバーを N に入れたとき
- ESP の機能を解除したとき
- ESP が作動したとき
- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ " と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときも自動的に解除されます。

⚠ 事故のおそれがあります

クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、必要な場合を除き、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は 30km/h ～ 210km/h までの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 車種や仕様により、設定できる速度が異なる場合があります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中は軽くブレーキペダルを踏むなどしてブレーキを効かせ続けないでください。ブレーキシステムが過熱し制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

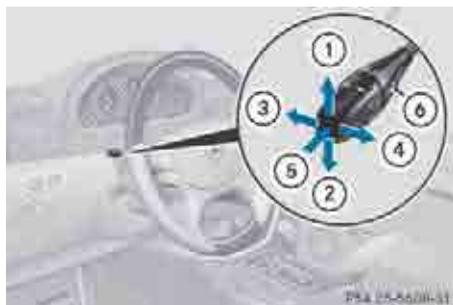
路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷220 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択しエンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ℹ 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①～⑤　レバーの操作方向
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（▷127 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

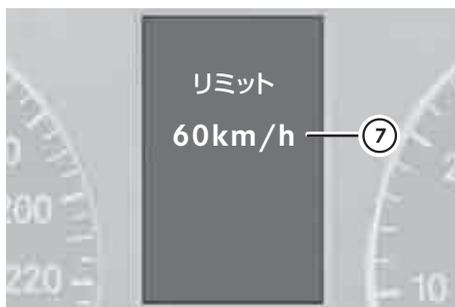
レバーの表示灯⑥が点灯していることを確認してください。

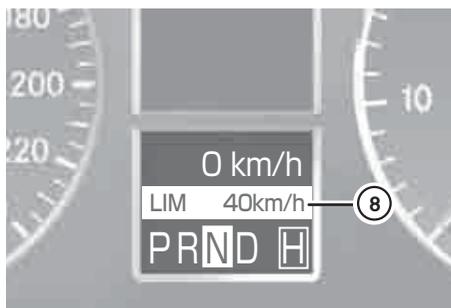
▶ レバーを①か②の方向に操作します。

- 走行速度が約 30km/h 以下のときは 30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていなく、走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 設定速度が記憶されていなく、走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

設定した制限速度がマルチファンクションディスプレイに表示された例
⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに " リミット " と設定速度⑦が数秒間表示されます。

設定した制限速度が車両情報サブ画面に移動し、表示された例
⑧ 設定速度

数秒後に車両情報サブ画面に設定速度⑧が表示されます。

! 可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

i 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

i 可変スピードリミッターの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

i アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは可変スピードリミッターを設定することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

! 設定速度を変更するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

! 可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

i 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

パークトロニック

リアバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

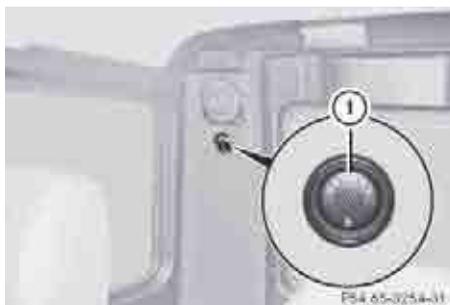
パークトロニックセンサー

① センサー

リアバンパーの 4 個のセンサー①が車の周辺の障害物などを感知します。

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときはパークトロニックが正常に作動しないことがあります。このときは、パークトロニックを作動させたときに警告音が鳴り続けることがあります。

センサーに傷や損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください（▷203 ページ）。

インジケーター

① インジケーター

インジケーターはテールゲートの右側上部にあります。

黄色インジケーターが 4 個、赤色インジケーターが 2 個あり、センサーと障害物とのおよそ距離を、インジケーターの点灯数で示します。

パークトロニックの作動

エンジンスイッチが **2** の位置で、セレクターレバーが **R** に入っているときに作動します。

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

障害物がセンサー感知範囲（約 150 ～ 100cm）に入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。障害物との距離が短くなるにつれ、点灯するインジケーターの数が増えます。

4 個目の黄色インジケーターが点灯すると、警告音が断続的に約 15 秒間鳴ります。

障害物との距離が近くなったとき

障害物がセンサーの最短感知距離に近付くと、1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音の間隔が短くなります。

障害物との距離がさらに短くなると 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音の間隔がさらに短くなります。

最短感知距離（約 30cm）になると、すべてのインジケーターが点滅し、警告音が連続的に鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点滅していたインジケーターが消灯することがあります。

! スペアタイヤカバーはリアバンパーより後ろに位置しているため、パークトロニックが知らせる距離よりも、実際の障害物との距離が短くなります。十分注意してください。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。

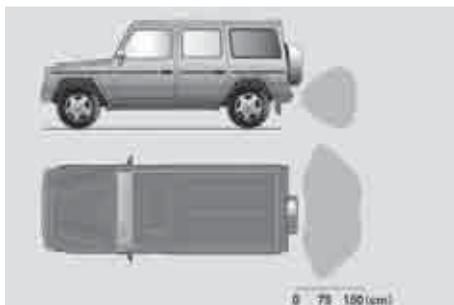
! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

i セレクターレバーを R に入れると、警告音が 1 回鳴り、すべてのインジケーターが一瞬点灯します。

i 以下のときは、パークトロニックが故障して、機能が解除されています。指定サービス工場で点検を受けてください。

- 警告音が鳴り続けるとき
- 警告音が 1 回鳴らず、すべてのインジケーターが一瞬点灯しないとき

センサーの感知範囲

	センサー感知範囲
中央	約 150cm ～ 30cm
コーナー	約 100cm ～ 30cm

! センサーは、約 30cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

けがのおそれがあります

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

! 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

! 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。

i ドアウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。

i 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

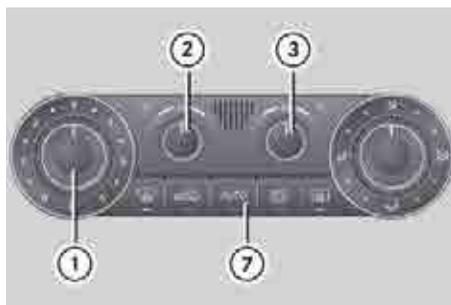
i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減少します。

コントロールパネル

	名称
①	送風量調整ダイヤル
②	送風温度調整ダイヤル（左側）
③	送風温度調整ダイヤル（右側）
④	送風口選択ダイヤル
⑤	リアデフォッガースイッチ
⑥	AC スイッチ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑦	AUTO スイッチ
⑧	内気循環スイッチ
⑨	デフロスタースイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた（AUTO モード）

① 送風量調整ダイヤル
② 送風温度調整ダイヤル（左側）
③ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑦ AUTO スイッチ

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ⑦を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

▶ 送風温度調整ダイヤル②③で好みの温度を設定します。

通常は22℃に設定することをお勧めします。

エンジンの始動直後は、設定にかかわらず、約30秒間足元にも送風されます。

エアコンディショナーをAUTOモードで作動させると、自動的にACモード（▷140ページ）に設定されます。

送風量調整ダイヤル①が0の位置でエアコンディショナーが停止しているときに送風量調整ダイヤルを0以外の位置にすると、エアコンディショナーは作動を開始します。

エアコンディショナーを停止する

▶ 送風量調整ダイヤル①を0の位置にします。

エアコンディショナーが停止します。

! ドアウインドウやスライディングルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

送風量調整ダイヤルが0の位置でエアコンディショナーが作動しているときは、送風量調整ダイヤルを一度0以外の位置にしてから、再度0の位置にするとエアコンディショナーは停止します。

AUTOモードを解除する

▶ エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、AUTOスイッチ⑦を押します。

AUTOスイッチの表示灯が消灯し、AUTOモードが解除されます。

送風量の調整や送風口の選択を手動で行なうことができます。

送風温度の調整

② 送風温度調整ダイヤル（左側）
③ 送風温度調整ダイヤル（右側）

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル②③を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル②③を反時計回りにまわします。

送風温度は左右別々に設定できます。

通常は22℃に設定することをお勧めします。

ドアウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持できません。

いずれかの側の送風温度をいっぱいまで上げたとき、または下げたときに、もう一方の側の送風温度も上がる、または下がることがあります。

AC モード

⑥ AC スイッチ

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にAC モードになります。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ AC スイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

事故のおそれがあります

ドアウインドウとスライディングルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

デフロスターモード（▷144 ページ）を解除したときは、自動的にAC モードになります。

AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

AC スイッチ⑥を押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーの冷媒が不足しています。除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

送風量の調整

① 送風量調整ダイヤル

送風量を手動で調整することができます。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときは、AUTO モードを解除（▷139 ページ）してから、送風量を調整します。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル①を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル①を反時計回りにまわします。

ⓘ エアコンディショナーが停止しているときに送風量調整ダイヤル①を 0 以外の位置にすると、エアコンディショナーが作動します。

ⓘ エアコンディショナーが作動しているときに送風量調整ダイヤル①を 0 の位置にすると、エアコンディショナーは停止します。

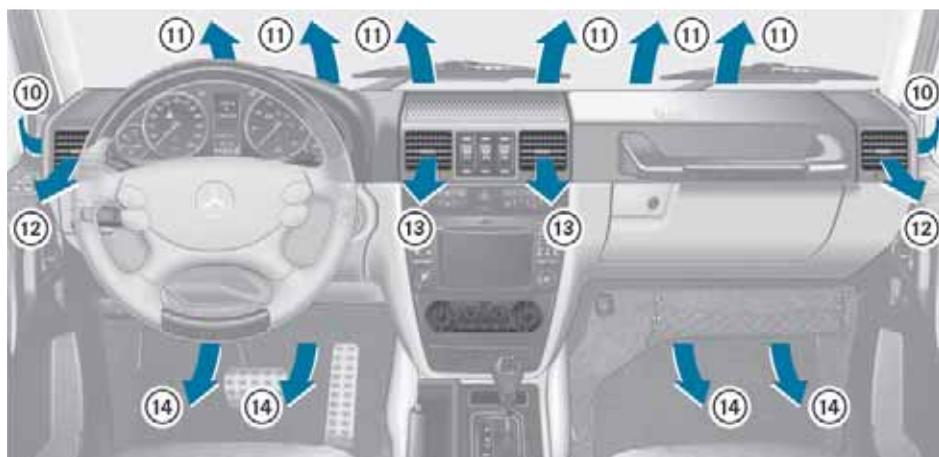
送風口を選択する

④ 送風口選択ダイヤル

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときは、AUTO モードを解除（▷139 ページ）してから、送風口を選択します。

▶ 送風口選択ダイヤル④をまわして、好みの送風口マークに合わせます。

ⓘ ダイヤルをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口マーク	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口⑪ フロントドアウインドウ送風口⑩
	フロントウインドウ送風口⑪ フロントドアウインドウ送風口⑩フロント足元送風口⑭　リア足元送風口
	フロント足元送風口⑭　リア足元送風口
	中央送風口⑬ サイド送風口⑫ リア送風口

送風口の開閉

中央送風口⑬とサイド送風口⑫は開閉することができます。

送風口を開く

▶ 各送風口の送風口開閉ダイヤルを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 各送風口の送風口開閉ダイヤルを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

送風口の風向き調整

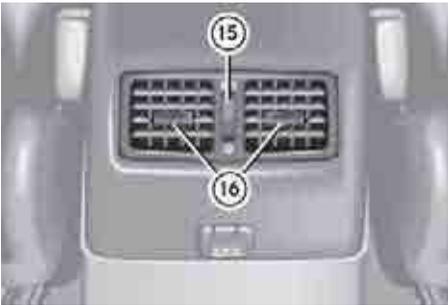
中央送風口⑬とサイド送風口⑫は風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を上げるため、中央送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

リア送風口

リア中央送風口

⑮ リア中央送風口開閉ダイヤル
⑯ ノブ

センターコンソール後端部にリア中央送風口があります。

! リア足元送風口がフロントシートの下にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。

リア中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル⑮を上方にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

リア中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル⑮を下方にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方にまわすと､送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ℹ 左右のリア送風口からの送風温度は、フロントの左右の送風温度の設定に連動します。

送風口の風向き調整

風向きを調整する

▶ 送風口のノブ⑯を上下左右に動かします。

デフロスターモード

⑦ AUTO スイッチ
⑨ デフロスタースイッチ

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- エアコンディショナーの送風量が上がります。
- エアコンディショナーの送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とフロントドアウインドウ送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前に AC モードを解除していたときは AC モードに、内気循環モードにしていたときは外気導入モードになります。

または

▶ AUTO スイッチ⑦を押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯し、デフロスタースイッチの表示灯が消灯します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ 中央送風口を閉じます。

▶ AC モードを解除しているときは、送風口選択ダイヤルをまわして、 または の送風口マークに合わせます。

ℹ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

⑤ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置になっていることを確認します。

▶ リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

　スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

　スイッチの表示灯が消灯します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ℹ リアデフォッガーは、使用を開始してから約 10 分後に自動的に停止します。

ℹ バッテリーの電圧が低くなるとリアデフォッガーは自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を開始します。

ℹ 外気温度が低いときは、車内が暖まるまではリアデフォッガーが作動しないことがあります。

内気循環モード

⑧ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに設定 / 解除ができます。

 事故のおそれがあります

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このときは内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように自動的に外気導入を始めます。

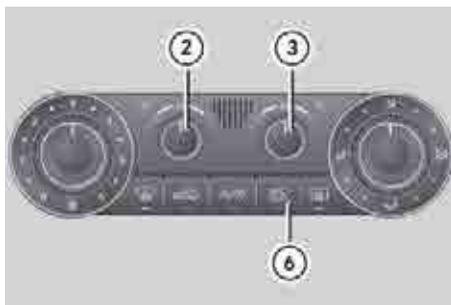
外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 内気循環モードのときに、AUTO モードやデフロスターモードにするか、AC モードを解除すると、外気導入モードになります。

余熱ヒーター・ベンチレーション

② 送風温度調整ダイヤル（左側）
③ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑥ 余熱ヒーター・
ベンチレーションスイッチ

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときに使用できます。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。

ℹ 少ない送風量で一定に保たれます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ 送風温度調整ダイヤル②③で送風温度を設定します。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター·ベンチレーションスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションは自動的に停止します。

- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- エンジンスイッチを **2** の位置にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- エンジン冷却水の温度が低下したとき

スライディングルーフ

⚠ **けがのおそれがあります**

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

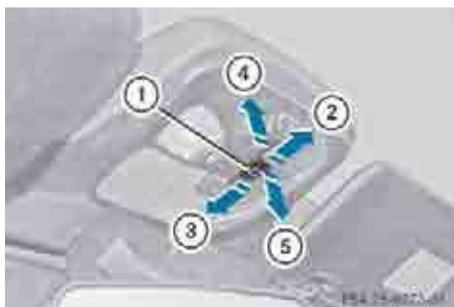
! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディンググルーフが完全に閉じていることを確認してください。

i スライディンググルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディンググルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i リモコン操作でスライディンググルーフを開閉することができます。詳しくは（▷90 ページ）をご覧ください。

スライディンググルーフの開閉

① スライディンググルーフスイッチ
② 開く
③ 閉じる
④ チルトアップ
⑤ 閉じる / チルトダウン

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作できます。

スライディンググルーフを開く

▶ スイッチを②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

i スライディンググルーフが自動で開いているときにスイッチを操作すると、その位置で停止します。

スライディンググルーフを閉じる

▶ スイッチを③または⑤の方向に押します。

スライディンググルーフをチルトアップする

▶ スイッチを④の方向に操作します。

スライディンググルーフをチルトダウンする

▶ スイッチを⑤の方向に操作します。

荷物の積み方 / 小物入れ

 けがのおそれがあります

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキや事故などのときに前方に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

カップホルダー

① カップホルダー

カップホルダーはグローブボックスのカバーの裏側にあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が飛び出して、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物が入った容器を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

! カップホルダーの上に、飲み物の容器以外のものを置かないでください。

ルーフラック

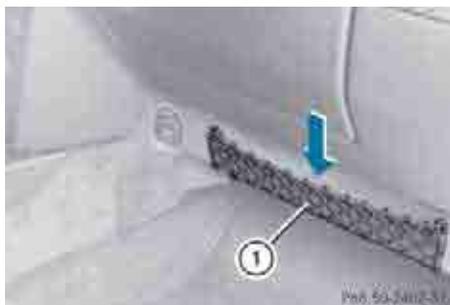
 事故やけがのおそれがあります

- 推奨品以外のルーフラックを取り付けると、車から外れて荷物が放り出されて、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。
- ルーフの最大積載量（約 200kg）を超えないように注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分に注意してください。

! ルーフラックはダイムラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフをチルトアップしたときに接触しないこと
- ルーフ前部のアンテナに接触しないこと

ルーフラックの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

収納ネット

① 収納ネット

助手席側の足元に新聞や雑誌などを収納できるネットを装備しています。

! 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

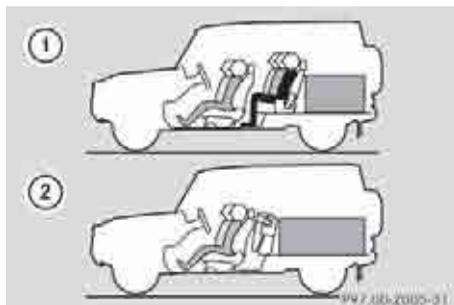
荷物を積むとき

 けがのおそれがあります

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキや事故などのときに前方に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ 中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

① リアシートを使用して荷物を積んだ状態
② リアシートを折りたたんで荷物を積んだ状態

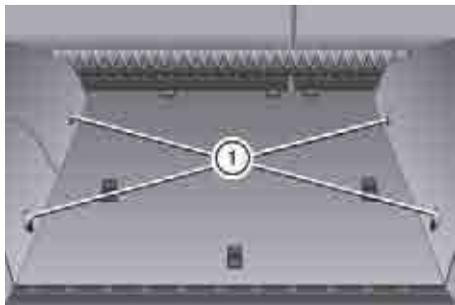
荷物の積みかたは車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量（▷265 ページ）を超えないようにしてください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルームの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。
- 荷物をバックレストより高く積み上げないでください。
- 荷物はフロントシートまたはリアシートの背面に接するように積んでください。
- 荷物はできるだけ人が座っていないシートの後方に積んでください。
- 大きな荷物を積まないときは、リアシートのバックレストを起こして確実に固定し、ヘッドレストを装着してください。

- リアシートに人を乗せないときは、上図のように左右のシートベルトプレートを反対側のバックルに差し込んで、シートベルトが交差するようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- ウインドウに荷物が当たらないように注意してください。ウインドウガラスを破損したり、リアデフォッガーの熱線を損傷するおそれがあります。
- 荷物を積むときは、必ずセーフティネットを使用してください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーはダイムラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

荷物を固定するとき

荷物固定用リング

① 荷物固定用リング

ラゲッジルームには 4 個の荷物固定用リング①があります。

けがのおそれがあります

荷物を固定するときは、荷物固定用リングを使用して確実に固定してください。荷物の積みかたが適切でなかったり、荷物を固定していないと、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

- 荷物固定用リングを使用して荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるロープやネットを使用しないでください。それらは軽い荷物を固定することしかできません。
- 伸縮率 7 % 以下および耐荷重張力 7 1 4 k g（600daN）以上の擦れに強く丈夫なロープやストラップ、ネットを使用してください。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用し、ラゲッジルームの 4 個の荷物固定用リングに通して確実に結んでください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。
- 荷物をテンションネットで固定するときは、荷物全体の上にネットを被せ、フックを荷物固定用リングにかけます。テンショナーを使用してストラップを強く締めてください。
- 締め付けストラップは、図のように荷物の上で交差するようにかけ、荷物の重量が各荷物固定用リングに均等にかかるようにします。締め付け金具を使用する場合は、荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。
- 荷物固定用アクセサリーの使用方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

分割可倒式リアシート

バックレストの左右いずれか一方、または両方を倒すことができます。

また、リアシートの左右いずれか一方、または両方を折りたたむことができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

- ラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- リアシートを折りたたんで荷物を積むときは、必ずセーフティネットを使用してください。

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

① バックレストレバー
② シートレバー

バックレストを倒す

▶ ヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ バックレストレバー①を矢印方向に引き、バックレストを前方に倒してロックします。

バックレストを元の位置に戻す

ℹ リアドアを開いておくと、バックレストレバーの操作がしやすくなります。

▶ バックレスト背面を下方に押しながら、バックレストレバー①を引き上げてロックを解除します。

▶ バックレストを引き起こします。

ℹ シートベルトが挟み込まれていないことを確認してください。

リアシートを折りたたむ

▶ バックレストを前方に倒してロックします。

▶ シートレバー②を引いてリアシートの後部に手をかけて引き起こし、前方に折りたたみます。

❗ リアシートを折りたたむときは、身体や物などを挟まないように注意してください。

❗ リアシートを折りたたむときは、フロントシートの位置を前方に移動し、バックレストを起こしてください。シートを損傷するおそれがあります。

リアシートを元の位置に戻す

▶ シート後部を下げてロックします。

▶ バックレストを元の位置に戻します。

⚠ **けがのおそれがあります**

走行する前に、シートが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故などのときに荷物が前方に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

ⓘ リアシートを起こした状態でセーフティネットを脱着するときは、バックレストを起こしたままシートレバーを引いて、リアシートを前方に倒します（▷153 ページ）。

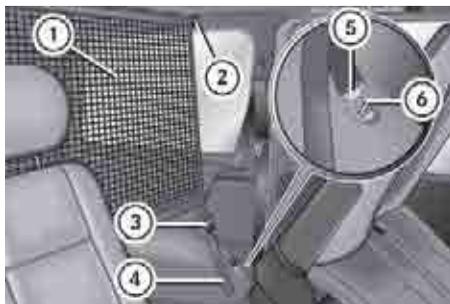
セーフティネット

走行中に荷物が前方に放り出されるのを防ぐために使用します。

リアシートを起こした状態、折りたたんだ状態のどちらでも使用できます。

⚠ **けがや事故のおそれがあります**

- 荷物を積むときは、荷物が前方に放り出されて乗員がけがをしないよう、必ずセーフティネットを使用してください。
- 損傷したセーフティネットは使用しないでください。
- セーフティネットでは、急ブレーキや事故などのときに、重い荷物を固定できません。重い荷物を積むときは、ロープやストラップで正しく固定してください（▷152 ページ）。
- セーフティネットを使用したときは、セーフティネットの後方に乗車しないでください。

リアシートを起こした状態で使用する

① セーフティネット
② 取り付け部
③ バックル
④ ストラップ
⑤ フック
⑥ リング

▶ バックレストを起こしたまま、リアシートを前方に倒します（▷153 ページ）。

▶ ストラップ④のバックル③が前方を向くようにして、セーフティネット①をリアクォーターウインドウ上方の取り付け部②にかけます。

▶ バックル③でストラップ④の長さを調整し、フック⑤をリング⑥にかけます。

- ストラップ④の先端を引き、セーフティネット①が軽く張る程度に調節します。
- リアシートを元の位置に戻し、ロックさせます。

ℹ リアシートを起こした状態で使用するリングは、リアホイールアーチ前方にあります。

ℹ リアドアを開いておくと、セーフティネットの着脱がしやすくなります。

リアシートを折りたたんだ状態で使用する

① セーフティネット
② 取り付け部
③ バックル
④ ストラップ
⑤ フック
⑥ リング

- リアシートを折りたたみます（▷153 ページ）。
- ストラップ④のバックル③が後方を向くようにセーフティネット①をリアドアウインドウ上方の取り付け部②にかけます。
- バックル③でストラップ④の長さを調節し、フック⑤をリング⑥にかけます。
- ストラップ④の先端を引き、セーフティネット①がぴったりと張るように調節します。

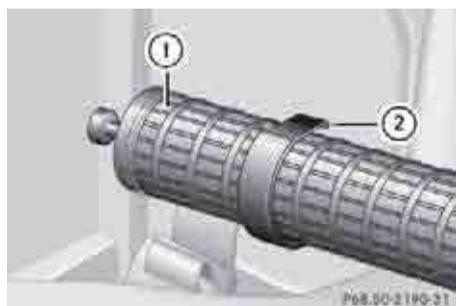
! リアシートを折りたたんだ状態でセーフティネットを使用するときは、ストラップを強く締めてください。

- 少し走行した後に、セーフティネットの張り具合を点検してください。必要があれば締めなおしてください。

ℹ リアシートを折りたたんだ状態で使用するリングは、リアシート下にあります。

セーフティネットを取り外す

- リアシートを起こした状態でセーフティネットを使用しているときは、リアシートを前方に倒します（▷153 ページ）。
- バックルを上方に倒してストラップをゆるめ、フックをリングから外します。
- セーフティネットを取り付け部から外します。

セーフティネットを収納する

① セーフティネット
② ベルクロストラップ

▶ セーフティネット①を巻きます。

▶ 付属のベルクロストラップ②で固定します。

▶ リアシートの後側に収納します。

小物入れ

 けがのおそれがあります

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

① ハンドル
② グローブボックスのカバー
③ キーシリンダー
④ 施錠の位置
⑤ 解錠の位置

グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引いて開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

! 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

ℹ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

キーシリンダー③にエマージェンシーキーを差し込んで施錠 / 解錠することができます。

グローブボックスを施錠する

▶ キーを施錠の位置④にまわします。

グローブボックスを解錠する

▶ キーを解錠の位置⑤にまわします。

ℹ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。

その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

センターコンソールの小物入れ

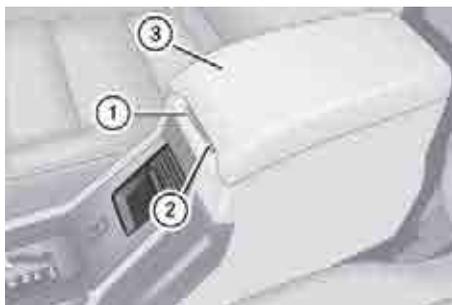
① センターコンソールの小物入れ

センターコンソールの小物入れを使用する

▶ カバーを後方に引きます。

センターコンソールの小物入れはカップホルダーとして使用することができます。

カップホルダーとして使用するときは、(▷149 ページ)の注意事項を守ってください。

フロントアームレストの小物入れ

① 右側レバー
② 左側レバー
③ フロントアームレスト

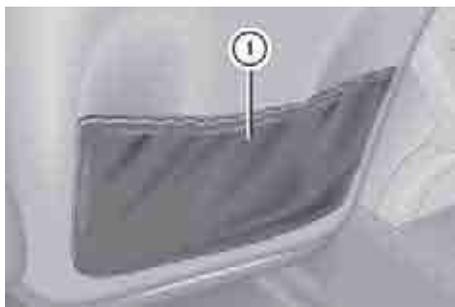
フロントアームレスト上部の小物入れを使用する

▶ 右側レバー①を押しながらフロントアームレスト③を持ち上げます。

フロントアームレスト下部の小物入れを使用する

▶ 左側レバー②を押しながらフロントアームレスト③を持ち上げます。

ℹ フロントアームレスト下部の小物入れには、販売店オプションの携帯電話接続ケーブル用のコネクターがあります。

シートバックポケット

① シートバックポケット

フロントシートの背面にシートバックポケットがあります。

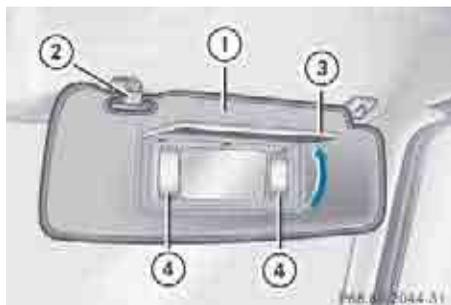
! シートバックポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

! フロントシートのバックレストを後方に倒すときは、シートバックポケットがリアシートのシートクッションに接触しないように注意してください。シートバックポケットの収納物やリアシートのシートクッションを損傷するおそれがあります。

室内装備

サンバイザー / バニティミラー

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故をおこすおそれがあります。

① サンバイザー
② フック
③ バニティミラーカバー
④ 照明

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザー①をフック②から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー③を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ バニティミラーカバー③を上方に開きます。

照明④が点灯します。

灰皿

! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

フロントの灰皿

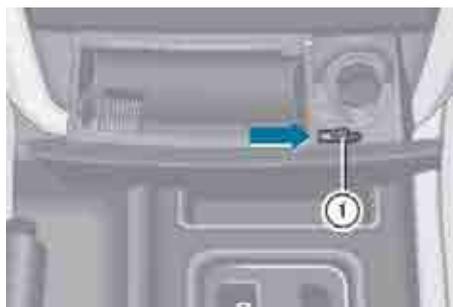
① カバー

フロントの灰皿はセンターコンソールにあります

灰皿を開く

▶ カバー①を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を前方に押して閉じます。

① ノブ

灰皿を取り外す

 事故のおそれがあります

灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせて、車が動き出さないようにしてください。

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ ノブ①を矢印の方向にいっぱいまで押します。

灰皿が上がります。

▶ 灰皿を取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を押し込みます。

リアの灰皿

① カバー
②プレート

リアの灰皿は左右のリアドアにあります。

灰皿を開く

▶ カバー①の上部を手前に引きます。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

灰皿を取り外す

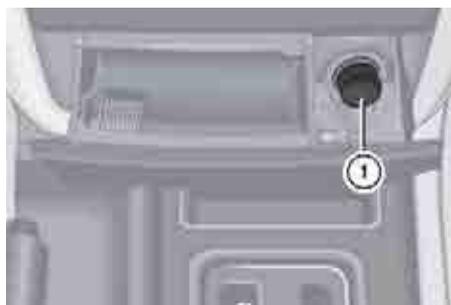
▶ 灰皿をいっぱいまで開きます。

▶ プレート②を押しながら、灰皿を手前に引き出します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿の底部を合わせ、プレート②を押しながらはめ込みます。

! 灰皿を取り付けるときに、指などを挟まないように注意してください。

ライター

① ライター

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ けがや火災のおそれがあります

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。また、ライターが過熱して火災が発生するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電力 180W 以下の規格に合った純正アクセサリーだけを使用してください。

12V 電源ソケット

助手席足元の 12V 電源ソケット

センターコンソール後端部の 12V 電源ソケット

ラゲッジルーム左側の12V 電源ソケット

助手席足元とセンターコンソール後端部、ラゲッジルーム左側にあります。

電気製品などの電源として使用します。

12V 電源ソケットを使用する

▶ カバーを上方に開きます。

▶ 電気製品のプラグをソケットに差し込みます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

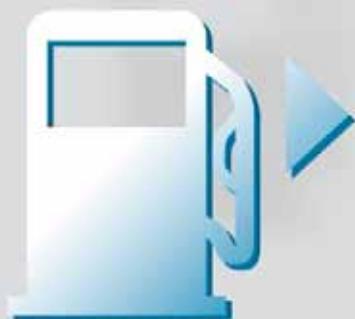
! ソケット内に指などを入れたりライターを差し込まないでください。感電したり、ショートするおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

フロアマット

⚠ **事故のおそれがあります**

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 **3**、**2**、**1** は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ⓘ G 55 AMG long は、以下の注意事項を守ってください。

- 最初の 1,500km までは走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

※ 公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- 最初の 3,000km でフロント / リアアクスルオイルの交換を行なうまではオフロード走行を避けてください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ⓘ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ⓘ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

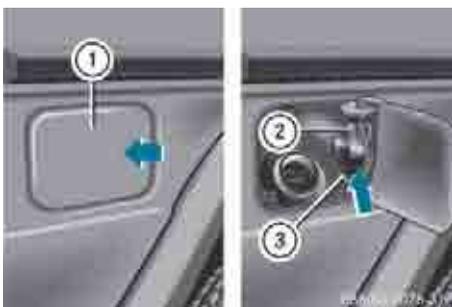
燃料の給油

燃料を給油する

火災や爆発のおそれがあります

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。

健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② キャップ
③ ホルダー

燃料給油フラップは、リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は、車体後部右側にあります。

燃料給油フラップを開く

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の位置を押します。

i リモコン操作で燃料給油フラップを解錠されないときは、手動で解錠できます（▷234 ページ）。

キャップを外す

▶ キャップ②を反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにゆっくりまわして外します。

▶ 外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー③に置きます。

キャップを取り付ける

▶ キャップ②を燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいにまわします。

キャップがロックする音が聞こえます。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

! 燃料をこぼさないように注意してください。

燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷180 ページ）をご覧ください。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 軽油を燃料として使用したり、燃料に混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合は指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

 けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

 けがのおそれがあります

エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

 けがのおそれがあります

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜き、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください(▷85 ページ)。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を引きます。

② ノブ

▶ ボンネットを少し引き上げて、ボンネットとラジエターグリルの隙間に手を入れ、ノブ②を矢印の方向に押しながらボンネットを開きます。

※車種や仕様により、ノブを手前に引きながらボンネットを開くタイプもあります。

! エンジンがかかっているときなど、ノブ②が熱くなっている場合がありますので注意してください。

ボンネットを閉じる

⚠ **事故のおそれがあります**

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

エンジンルーム

G 550 long

①	ウォッシャー液リザーブタンク	177
②	冷却水リザーブタンク	174
③	ブレーキ液リザーブタンク	176
④	エンジンオイルフィラーキャップ	172
⑤	エンジンオイルレベルゲージ	170

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

G 55 AMG long

①	ウォッシャー液リザーブタンク	177
②	冷却水リザーブタンク	174
③	ブレーキ液リザーブタンク	176
④	エンジンオイルフィラーキャップ	170

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

けがのおそれがあります

- イグニッションシステムやバイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

! エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。

! ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所で行なってください。

! 適切な工具を使用してください。

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

環　境

環境保護のため、油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など）の交換・廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

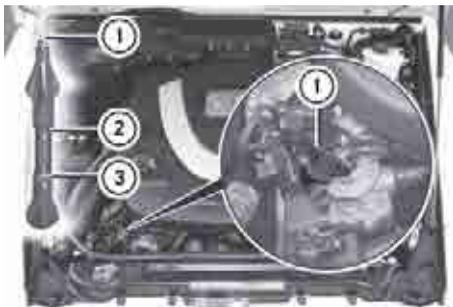
エンジンオイル

! 運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは （▷219 ページ）をご覧ください。

i 慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイル量の点検（G 550 long）

① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動させ、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約 5 分ほど待ちます。

エンジンオイルが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイル量が下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、約 2 リットルです。

エンジンオイル量の点検（G 55 AMG long）

マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面で点検します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ 安全で水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約 5 分待ちます。

エンジンオイルが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分以上待ちます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます (▷110 ページ)。

▶ [▲] または [▼] を押して、エンジンオイル量点検画面を表示させます。

" ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲﾁｭｳ ｿｸﾃｲ ﾊ ｼｬﾘｮｳ ｽｲﾍｲｼﾞ ﾉﾐ ｶﾉｳ " と表示され、数秒後に以下のいずれかの点検結果が表示されます。

ℹ エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｼﾞｭﾝｼｭ " と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに " ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ " と表示されたときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。

このときは、エンジンオイル量は適正です。

このときは、エンジンオイル量が不足しています。

表示される数値に従ってエンジンオイルを補給してください。

ℹ 補給するエンジンオイル量に応じて、表示される数値が変わります。

ℹ エンジンオイルの補給については (▷172 ページ) をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

このときは、エンジンオイルが多すぎます。

走行しないで、エンジンオイルの量を適正にしてください。

! エンジンオイルが多すぎると、エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

このときは、エンジンオイルレベルが安定していません。

約 5 分ほど待ってから点検をやり直してください。

再度マルチファンクションディスプレイに " ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｼﾞｭﾝｼｭ " と表示されたときは、約 30 分ほど待ってから点検をやり直してください。

! エンジンがかかっているときに、マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは （▷219 ページ）をご覧ください。

i エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに " ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｴﾝｼﾞﾝ ｵﾌﾉﾄｷ " と表示されます。

エンジンオイルを補給する

G 550 long
① エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷219 ページ）をご覧ください。

環 境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ **火傷のおそれがあります**

- 水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の量を点検する

① リザーブタンク
② キャップ

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク①の白と黒の境目まで液面があれば適量です。

ℹ 水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくりと約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域 (最低気温) によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 不凍液の濃度は約 50％から約 55%の間にしてください。濃度を約 55%以上にすると、冷却性能が低下します。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷217、218 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- 冷却水温度警告灯が点灯し、警告音が鳴る。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

火災のおそれがあります

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

火傷のおそれがあります

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷217、218 ページ）をご覧ください。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください。

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷174 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

 事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷216 ページ）、ブレーキ警告灯（▷223、224 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

 事故のおそれがあります

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

 火傷や火災のおそれがあります

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷216 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

① レベルインジケーター上限（MAX）
② レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーター上限①と下限②の間にあれば正常です。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック：**長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウォッシャー液を補給する

① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

⚠ **火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（▷265 ページ）。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷220 ページ）をご覧ください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 事故や火災のおそれがあります

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷180 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

ⓘ 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態 (別冊「整備手帳」参照) を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧測定装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷していると、走行しているときに振動や騒音が発生したり、ステアリングがどちらか一方に取られるなど不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、指定サービス工場で点検を受けてください。

- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石や路面の段差や凹凸物などを乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にして速度を落として乗り越えてください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

- タイヤを清掃するときは、高圧式スプレーガンなどを使用しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷165ページ）。

乗車人数や荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒ kg/cm²）」と「psi」で示しています。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

事故のおそれがあります

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

事故のおそれがあります

ホイールバルブには純正品または承認されたバルブキャップ以外のものを装着しないでください。特にバルブにねじ込んで装着するタイプの市販のタイヤ空気圧計測器を装着すると、ホイールバルブに負担がかかり、ホイールバルブが脱落するおそれがあります。また、構造上バルブが常に開いた状態になり、空気漏れにつながるおそれがあります。

事故のおそれがあります

タイヤの空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤの空気圧が低いときは、車の安全性に悪影響を及ぼし、事故につながるおそれがあります。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

i 乗員人数や荷物の量に応じたタイヤ空気圧の記載がある場合は、記載内容に従ってください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

i 積載荷物が少ないときに、重い荷物に対応した空気圧に調整すると、乗り心地が悪くなることがあります。

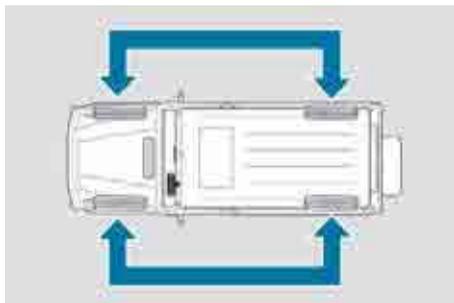
i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤローテーション

 事故のおそれがあります

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは13kg-m(130Nm) です。タイヤローテーションを行なったあとは、指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に行なうと、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤローテーションを行なった後は、タイヤ空気圧を調整してください。

ℹ タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です（▷185、186 ページ）。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

- ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。
  - ◇ 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
  - ◇ ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
  - ◇ 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアウインドウ、スライディングルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

⚠ 中毒のおそれがあります

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や BAS、4ETS や ESP の効果が発揮されます。

事故のおそれがあります

- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、スペアタイヤを装着すると、車両操縦性や走行安定性、制動性能が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路では、クルーズコントロールは使用しないでください。

! ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i ウィンタータイヤについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着します。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーン装着時は約50km/h以下の速度で走行してください。

! G 55 AMG long は、標準タイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

i スノーチェーン装着中は、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールを使用しないで下さい。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

滑りやすい路面での発進

車輪を空転させないように発進してください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

▶ 必要に応じてディファレンシャルロックをオンにしてください (▷102 ページ)。

エンジンを停止しての走行

 事故のおそれがあります

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

 事故のおそれがあります

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

 火災のおそれがあります

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

ブレーキシステムを改造したり、スペーサーやブレーキダストシールドなどを使用しないでください。

! 高速道路を走行しているときなど、ブレーキを効かせずに長時間走行していると、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまでは、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

i 長い急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを 3、2、1 にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります（エンジンスイッチが **1** の位置のときも点灯したままになります）。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷216 ページ）をご覧ください。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります

i **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約 50cm です。

  波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

車の周囲が雪で覆われているとき

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールは使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

サイドステップが濡れているときの注意

降雨時や洗車時など、サイドステップが濡れているときは、十分注意してステップに足を乗せてください。足を滑らせてけがをするおそれがあります。

オフロードでの走行

車の特性や操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。

オフロードを走行する前に以下の注意をよくお読みください。

環　境

環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

オフロードを走行する前に

- タイヤの溝の深さと空気圧を点検してください（▷180 ページ）。損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。バルブキャップが紛失している場合は、取り付けてください。
- リムが歪んでいたりホイールに損傷がある場合は交換してください。
- ブレーキに泥汚れがないか確認してください。緊急時に十分なブレーキ力が得られないおそれがあります。
- エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が少ないときは必ず補給してください（▷172 ページ）。
- ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにけん引用ケーブルや折りたたみ式スコップなどを車に積んでおいてください。
- 荷物が確実に収納されていること、または確実に固定されていることを確認してください。
- ドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

ヘッドランプガード

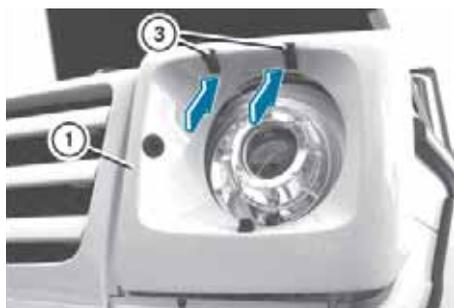
! 保安基準に適合しないため、ヘッドランプガードを取り付けたまま公道を走行しないでください。

① ヘッドランプケース
② 取り付けネジ

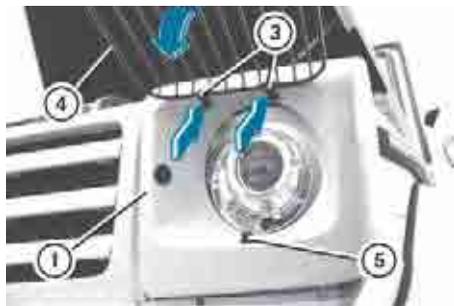
ヘッドランプガードの取り付け

▶ プラスドライバーでヘッドランプケースの取り付けネジ②をゆるめ、ヘッドランプケース①を上方に引き抜きます。

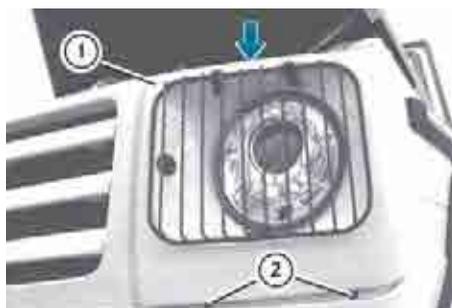
! 取り付けネジは、ヘッドランプケースが引き抜ける程度までゆるめてください。ゆるめすぎるとネジが脱落したり紛失するおそれがあります。

i ヘッドランプケースはヘッドランプウォッシャーが取り付けられているため、取り外すことはできません。

① ヘッドランプケース
③ マウント

▶ プラスドライバーでヘッドランプケース①上側のネジを外し、マウント③を取り外します。

! ネジを外すとヘッドランプケース裏側のワッシャーが外れます。紛失しないように注意してください。

① ヘッドランプケース
③ マウント
④ ヘッドランプガード
⑤ ロック

▶ ヘッドランプガード④の図の位置にマウント③をはめ込み、ヘッドランプケース①にネジ止めします。

▶ ヘッドランプガード④を下げ、ロック⑤にはめ込みます。

① ヘッドランプケース
② 取り付けネジ

▶ ヘッドランプケース①を上から差し込みます。

▶ 取り付けネジ②を締め、ヘッドランプケース①を固定します。

! 取り付けネジは強く締めすぎないでください。ヘッドランプケースやヘッドランプガードを損傷するおそれがあります。

オフロードを走行するとき

▶ 必要に応じて、クロスカントリーギアにしてください（▷100 ページ）。

▶ 必要に応じて、ディファレンシャルロックをオンにしてください（▷102 ページ）。

- 地形や路面の状況が把握できないときや視界の悪いときは、走行する前に車から降りて、危険がないことを確認してください。
- 上りはじめと終わりは、なだらかな斜面を選択して走行してください。

- 斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングをまわし、姿勢を立て直してください。
- セレクターレバーを **N** に入れたままで走行しないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
- 車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
- クルーズコントロールを使用しないでください。
- 高低差のある段差を乗り越える場合は、左右両輪で乗り越えてください。片輪で乗り越えると車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
- できるだけわだちから外れないように走行してください。
- 坂道はできるだけまっすぐに上り、まっすぐに下りてください。
- 低速でスムーズに走行し、常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- アクセルペダルはゆっくり踏み込み、タイヤを空転させないようにしてください。

坂を上るとき

▶ 必要に応じて、クロスカントリーギアにしてください。

▶ 必要に応じて、ディファレンシャルロックをオンにしてください（▷102 ページ）。

▶ 坂の勾配に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（▷97 ページ）。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

ℹ 坂が急勾配で上り切れない場合は、U ターンせず、セレクターレバーを **R** に入れて後退して下りてください。

ℹ 急勾配の坂で前輪の荷重が不足したときは、前輪は空転しやすくなります。このような状況を検知すると 4ETS が作動し、自動的にブレーキ制御を行ないます。これにより後輪へのトルク配分が増えて登坂能力が増します。詳しくは（▷49 ページ）をご覧ください。

坂を上り切ったとき

▶ 坂を上り切る直前にアクセルペダルをゆるめ、車の惰性を利用して上ってください。

これにより、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。また、速度が上がりすぎないようにして下り坂に備えることもできます。

坂を下るとき

▶ ティップシフトでギアレンジ **1** を選択してください（▷97 ページ）。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

- 速度を上げないでください。
- 滑りやすい急な下り勾配を走行するときは、エンジンブレーキを効果的に効かせながら車を横滑りさせないように、注意深くブレーキペダルを踏み込んでください。
- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキを点検してください。

河川などを渡るとき

▶ クロスカントリーギアにしてください。

▶ 必要に応じて、ディファレンシャルロックをオンにしてください（▷102 ページ）。

▶ ティップシフトでギアレンジ **1** か **2** を選択してください（▷97 ページ）。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

- やむを得ず河川などを渡るときは、走行前に水深と川底の状況を確認してください。
- 安全な場所でテスト走行をしてください。最大許容水深値（▷197 ページ）を超えるところは絶対に走行しないでください。
- 河川を渡っている途中でドアを開かないでください。浸水すると、内装や電気装備を損傷するおそれがあります。
- 人が歩くくらいの速度で、水深の浅い場所を選択し、渡ります。水に入るときは速度を上げないでください。波が立ちエンジンや車体を損傷するおそれがあります。
- 波が立たないようにゆっくりと一定の速度を保って走行してください。
- 河川を渡っている途中でシフト操作をしたり、車やエンジンを停止させないでください。水の中は抵抗が大きいため、発進が困難になります。
- 河川の流れに対して直角または下流方向へ横断してください。
- 河川を渡った後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。また、タイヤの溝を洗浄してください。

最大許容水深値

① 最大許容水深値

車種	最大許容水深値
全車	50cm

アプローチ / デパーチャアングル

① アプローチアングル（フロント）
② デパーチャアングル（リア）

車種	アプローチアングル	デパーチャアングル
G 550 long	約 37°	約 31°
G 55 AMG long	約 33°	約 28°

障害物を乗り越えるとき

木の切り株や大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下の注意に従ってください。

▶ クロスカントリーギアにしてください。

▶ ティップシフトでギアレンジ **1** を選択してください（▷97 ページ）。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

- 障害物に対して直角になるようにして、まず前輪で障害物の中央を乗り越え、次に後輪で乗り越えてください。障害物の端のほうを乗り越えると、横滑りするおそれがあります。
- 障害物により車の底部や車体、駆動部を損傷させないように注意してください。
- 同乗者がいるときは、車外から誘導してもらってください。

砂地を走行するとき

やわらかい砂地での走行は、スタック（立ち往生）しやすいため、以下の注意に従ってください。

▶ クロスカントリーギアにしてください。

▶ 砂地の状況に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（▷97 ページ）。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

- 砂地では車が埋まらないよう、やや速度を上げて走行してください。
- 他の車が残した浅いわだちをなぞって走行してください。このときは、わだちの深さとかたさに注意してください。

わだちを走行するとき

▶ クロスカントリーギアにしてください。

▶ ティップシフトでギアレンジ **1** を選択してください（▷97 ページ）。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

- わだちと車の底部との間に十分な余裕があることを確認してください。
- わだちが深い場合は、左右どちらかの車輪をわだちの間に乗せて走行してください。車の底部が地面に接触し、タイヤが地面から離れて走行不能になるおそれがあります。

オフロードを走行した後に

オフロード走行後は、車を点検することをお勧めします。

▶ クロスカントリーギアを解除してください。

▶ ディファレンシャルロックを解除してください（▷103 ページ）。

▶ ヘッドランプやテールランプなどを洗浄し、損傷がないか点検してください。

▶ ライセンスプレートを洗浄してください。

▶ ホイールやホイールハウス、ボディ底部、タイヤをスプレーガンなどで洗浄し、タイヤに挟まった異物を取り除いてください。

▶ 車の底部、タイヤ、ボディ、ステアリング、駆動系部品、排気系部品などに損傷がないか点検してください。

▶ 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系部品、ブレーキホース、アクスルジョイントやドライブシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。

▶ ぬかるみ、砂の上、水の中を走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、掃除してください。

▶ 走行中に強い振動を感じる場合は、ホイールの隙間などに異物がかみ込んでいないか点検してください。

車の損傷は乗り心地を悪化させ、事故の原因になります。指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

ダイムラー社指定の点検整備

ダイムラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の実施時期が近付くと、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面は手動でも表示できます。

手動で表示させる

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます（▷110 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させせます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

点検整備実施時期前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX km"

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｼﾞｯｺｳ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｼﾞｯｺｳ "

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX ﾆﾁｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX ﾆﾁｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX km ｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX km ｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

点検整備実施時期を過ぎたときは、警告音も鳴ります。

ⓘ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A"、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の範囲を示すもので、どちらが表示されるかは日ごろの運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。

ⓘ メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

ⓘ バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備実施時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ **中毒や火災のおそれがあります**

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、燃料やシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダーの内側を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

車内

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。また、乾いた布などで強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。
- パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーとサイドアンダーミラーを格納してください。
- ワイパーの作動モード（▷85 ページ）を停止の位置にしてください。
- 回転ブラシの硬さによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

 火災や爆発のおそれがあります

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

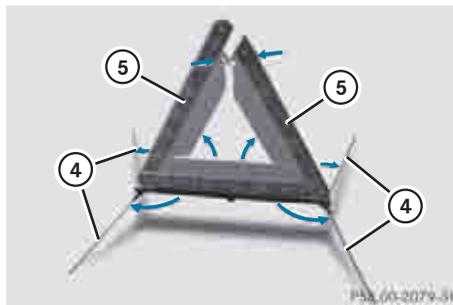
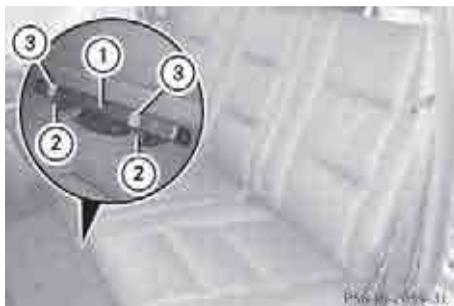
! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

i セレクターレバーを P から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（▷236 ページ）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに装備しています。

ℹ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

① 停止表示板ケース
② バックル
③ ストラップ

停止表示板は、左側リアシートの下に収納されています。

停止表示板ケースを取り出す

▶ 左側リアシート下のストラップ③のバックル②を押し、ストラップをゆるめます。

▶ 停止表示板ケース①を取り出します。

停止表示板ケースを収納する

▶ 停止表示板ケース①にストラップをかけ、バックルを押しながらストラップを引いて締めます。

④ スタンド
⑤ 反射板

停止表示板を組み立てる

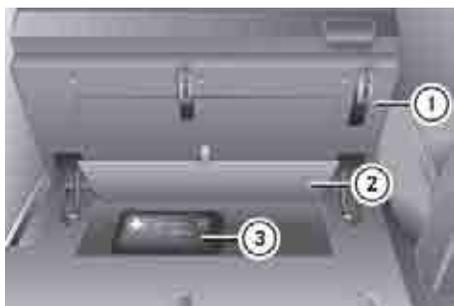
▶ 左右のスタンド④を引き出します。

▶ スタンド④を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板⑤を引き出し、頂点をかみ合わせてロックします。

ℹ 高速道路や自動車専用道路で停車するときは、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

救急セット

① 左側リアシート
② 小物入れのカバー
③ 救急セット

救急セットは、左側リアシート下の小物入れに収納されています。

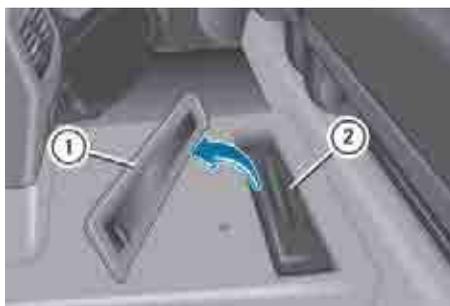
救急セットを取り出す

▶ 左側リアシート①を前方に折りたたみます（▷153 ページ）。

▶ 小物入れのカバー②を開きます。

ⓘ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

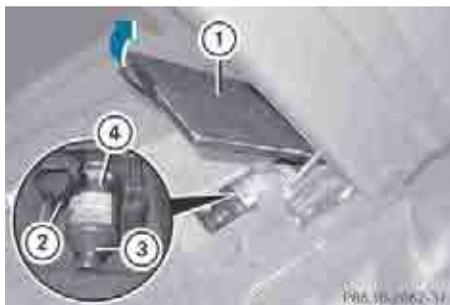
※ 車種や仕様により、救急セットがドアポケット内に収納されていることがあります。

車載工具

① カバー
② 車載工具

車載工具は、リアシート足元中央部のフロア下に収納されています。

車載工具を取り出す

▶ カバー①を上方に取り外して、車載工具②を取り出します。

ジャッキ

① カバー
② バックル
③ ジャッキ
④ ストラップ

ジャッキは、右側リアシートの下に収納されています。

ジャッキを取り出す

▶ 右側リアシートを前方に折りたたみます（▷153 ページ）。

▶ カバー①を開きます。

▶ ストラップ④のバックル②を押し、ストラップをゆるめます。

▶ ジャッキ③を取り出します。

ジャッキを収納する

▶ ストラップをジャッキに巻き付けます。

▶ バックルを押しながらストラップを引いて締めます。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキは、タイヤを交換するために車を一時的に持ち上げる目的のみに設計されています。
- ジャッキはかたくてすべりにくい、水平な場所でのみ使用してください。パーキングブレーキを確実に効かせ、さらに輪止めを使用して、車が動き出してジャッキから外れることを防いでください。

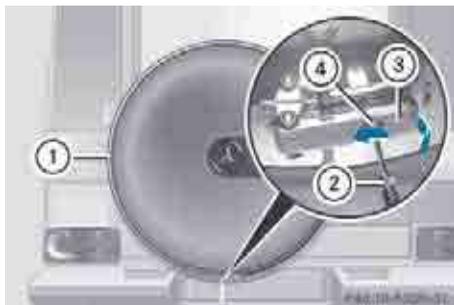
スペアタイヤ

! スペアタイヤが確実に固定されていることを定期的に点検してください。

! スペアタイヤの溝が摩耗限度に達したら、ただちに新品と交換してください。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年を経過したスペアタイヤは新品と交換してください。

! G 55 AMG long は、スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

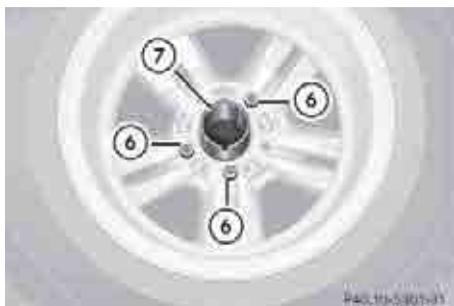
スペアタイヤの取り外し

① 外周カバー
② マイナスドライバーなど
③ ロック
④ 凹部

▶ 外周カバー①のロック③の凹部④にマイナスドライバーなど②を差し込んで凹部をまわし、ロックを外します。

① 外周カバー
⑤ 後部カバー

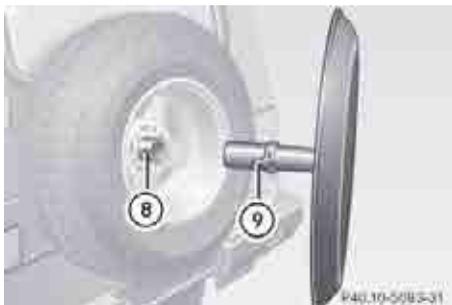
▶ 外周カバー①を矢印の方向に広げて外します。

▶ 後部カバー⑤を手前に引いて外します。

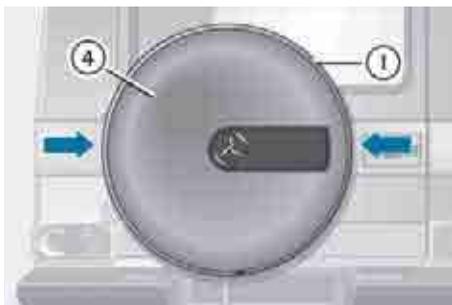
! スペアタイヤの外周カバーや後部カバーを外すときは、必ず手袋などを着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

⑥ ナット
⑦ タイヤホルダー

▶ スペアタイヤを固定しているナット⑥（3 本）をゆるめ、タイヤホルダー⑦からスペアタイヤを取り外します。

! スペアタイヤは非常に重量があります。スペアタイヤを取り外すときは、スペアタイヤを落下させてけがをしないように注意してください。

スペアタイヤの収納

⑧ タイヤホルダーの凹部
⑨ 後部カバーの凸部

▶ タイヤをタイヤホルダーにかけ、ナット（3 本）を締めて固定します。

▶ 後部カバーの凸部⑨をタイヤホルダーの凹部⑧に合わせ、後部カバーを取り付けます。

① 外周カバー
④ 後部カバー

▶ 外周カバー①のロックが下部になるようにして、外周カバーを後部カバー④に被せるように取り付けます。

③ ロック
⑩ フック

▶ フック⑩を反対側の外周カバーの取り付け穴に掛けます。

このとき、外周カバーにゆるみがないことを確認します。

▶ マイナスドライバーなどをロック③の凹部（▷209 ページ）に差し込み、反時計回りに約 45 度まわしながら、ロックを反対側の外周カバーにかぶせます。

▶ ロックの凹部からマイナスドライバーなどを抜きます。

ロックが確実に固定されていることを確認します。

! スペアタイヤは必ずタイヤホルダーに取り付け、外周カバーおよび後部カバーを被せてください。

! 外周カバーを取り付けるときは、必ず外周カバーが確実に後部カバーに被さっていることを確認してください。後部カバーが脱落するおそれがあります。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずエンジンスイッチを **2** の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。

- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの [ボタン] または [ボタン] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させます。

故障や異常がある場合は、"ｺｼｮｳｶﾞ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ [▲] または [▼] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの [ボタン][ボタン] や [▲][▼] スイッチ、またはリセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS, ESP	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	**⚠ 事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP が作動しない状態になっている。BAS と 4ETS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキ時は通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ABS, ESP	ｼﾖｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	**⚠ 事故のおそれがあります** 電圧システムの自己診断が完了していない可能性があるため、一時的に ABS と ESP が作動しない状態になっている。BAS と 4ETS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキ時は通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
AAS	ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	**⚠ 事故のおそれがあります** 故障のため、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 坂道でアクセルペダルから足を放した直後に、車が動き出すおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ESP	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	**⚠ 事故のおそれがあります** 故障のため、ESP が作動しない状態になっている。BAS と 4ETS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキ時は通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ESP	ｼｮｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** システムの自己診断が完了していないため、一時的に ESP が作動しない状態になっている。BAS と 4ETS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキ時は通常通り作動する。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、ESP は待機状態になります。
ESP	ｼｮｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ESP が作動しない状態になっている。バッテリーが充電されていない可能性がある。BAS と 4ETS の機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキ時は通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの表示に従ってください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ	ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	トランスミッションの作動が制限されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

イラストメッセージ

事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを確実に閉じてください。
		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを確実に閉じてください。
		複数の電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を表示できない状態になっている。以下のシステムに異常がある可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターの表示 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
		ラジエターの冷却ファンに異常がある。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りの指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ その場合は、山道での走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[バッテリー表示灯]		以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの異常 • V ベルトが切れている • 電気システムの故障 ▶ 周囲の状況に注意しながら、ただちに安全な場所に停車して、V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
[バッテリー表示灯]		バッテリーの電圧が低下している。 ▶ エンジンを始動してください。 ▶ 必要のない電気装備を停止してください。
[ブレーキパッド表示灯]	ブ゛レーキ パ゜ット゛ マモウ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
[ブレーキ警告灯]	ブ゛レーキ オイルレベ゛ル テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
[ブレーキ警告灯]	ブ゛レーキ プ゜レッシャ ブ゛ンパ゜イ コウジ゛ョウデ゛ テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBV の機能が停止している。BAS も作動しない状態になっている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
[パーキングブレーキ表示灯]	パ゜ーキング゛ ブ゛レーキ カイジ゛ョ	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
SRS	SRS システム コショウ コウジ゛ョウデ゛ テンケン	⚠ けがのおそれがあります 乗員保護装置が故障している。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ネンリョウ フィルタ セイソウ	燃料タンクに水が混入している。水を抜く必要がある。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
LOW HIGH	トランスファ ケースノシフト プ゜ロセス チュウダ゛ン	クロスカントリーギアのシフト操作が中断された。 ▶ 再度、シフト操作を行なってください。
LOW HIGH	トランスファ キリカエ ジ゛ョウケン フジ゛ュウブ゛ン	クロスカントリーギアのシフト条件を 1 つ以上満たしていない。 ▶ 再度、シフト操作を行なってください。
LOW HIGH	トランスファ セレクタ N ニイレマス	クロスカントリーギアがニュートラル位置になっている。 ▶ クロスカントリーギアを HIGH または LOW にシフトしてください。
LOW HIGH	トランスファ ケース コウジ゛ョウデ゛ テンケン	クロスカントリーギアに異常がある。 ▶ クロスカントリーギアのシフト操作を行なわないでください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
	レイキャクスイ テイシャシテ エンジ゛ン テイシ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ！	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を守りながら、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰﾋﾞｰﾑ[1]	左ヘッドランプ（ロービーム）が切れている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーに異常がある。ヘッドランプ点灯モード（▷119 ページ）がオンになる。 ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯モードに切り替えてください。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	エンジンエアフィルターの交換時期になっている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｷｭｳﾕﾉｻｲ ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで下がっている。 ▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ！	エンジンオイル量が不足している。 エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルを補給し、エンジンオイル量を点検してください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が多すぎる。 エンジンや触媒を損傷するおそれがある。 ▶ 規定の量になるまで、エンジンオイルを抜いてください。 エンジンオイルを廃棄するときは、規則に従ってください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイルに水が混じっている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで下がっている。 ▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ﾌｶﾉｳ	エンジンオイル量計測システムに異常がある。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｷｰｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾄﾘﾐｯﾀ ｺｼｮｳ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが作動しない状態になっている。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ	燃料の残量が少なくなっている。燃料計の指針が下限を示している。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。

トラブルの原因と対応

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートヒーターが自動的に停止している。 ▶ ルームランプや読書灯など、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動します。
エアコンディショナーの AC スイッチ A/C を押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 除湿 / 冷房された空気が送風されない。	エアコンディショナーの冷媒が不足している。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リアデフォッガーの表示灯が点滅している。リアデフォッガーが短時間で停止したり、スイッチを押しても作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ ルームランプや読書灯など、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着していない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 ▶ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを使用する場合は、必ずリアシートに装着してください。 ▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • パソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード **電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯するとき** ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

表示灯 / 警告灯

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。そのため、ESP と BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ABS コントロールユニットが故障している場合は、パークトロニック、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなどが故障している可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 ESP、BAS、4ETS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ ルームランプや読書灯など、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ABS は待機状態になります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。
		ディファレンシャルロックをオンにしている。 ▶ ディファレンシャルロックをオフにしてください。 ABS が待機状態になります。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	走行中に黄色の ESP 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか、空転している、またはロックしているため、ESP や ABS、トラクションコントロールなどが作動している。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
	エンジンがかかっているときに黄色の ESP 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP の機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ ESP を待機状態にしてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
		ディファレンシャルロックをオンにしたため、ABS、ESP、4ETS、BAS の機能が解除された。 ▶ ディファレンシャルロックをオフにしてください。 ABS、ESP、4ETS、BAS が待機状態になります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。
SRS	エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
(!)	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	パーキングブレーキを効かせている。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯します。
(!)	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音が鳴り止みます。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
		エンジンの電気システムが故障している。 エンジンの出力が低下している。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないようにし、エンジン回転数が 2,500 回転を超えないように運転してください。
	フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
		⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。燃料計の指針が下限を示している。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドアまたはテールゲートをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内からドアまたはテールゲートを開いたか、ボンネットのロックを解除して開いた。 ▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷211 ページ〜）。
警告音が鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
警告音が鳴った。	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
走行速度が約 25km/h 以上になったときに警告音が鳴った。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがある。 ▶ ただちにエンジンを停止してください。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 ▶ リモコン操作で解錠してください。
	燃料給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷234 ページ）。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷249 ページ）。 **他車のバッテリーを電源としてもエンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約 120℃を超えている。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全な場所に停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を守りながら、冷却水を補給してください（▷174 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りの指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ その場合は、山道の走行などでエンジンオイルに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合がある。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーを D に入れます。 2 速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーを R に入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
車が後退しているときに警告音が鳴る。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷203 ページ）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷134 ページ）。
車が後退しているときに警告音が鳴る。または、セレクターレバーを **R** に入れたときに警告音が鳴らず、パークトロニックのインジケーターも点灯しない。	パークトロニックの故障により、機能が停止している。 ▶ すみやかに指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。 ▶ 指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着している可能性がある。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウが閉じない。	ドアウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	ドア内側のガイドレールなどに障害になる物があり、ドアウインドウの上昇を妨げている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを引きます。 ドアウインドウが閉じないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ドアミラーを走行時の位置に戻してください。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアやテールゲートを解錠 / 施錠してください（▷233、234 ページ）。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷237 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアやテールゲートを解錠 / 施錠してください。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーのボタンを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの電池を交換してください（▷237 ページ）。
キーを紛失した。	▶ 指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していた。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差してください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 **それでもエンジンスイッチがまわらないとき** ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷249 ページ）。 または ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、指定サービス工場におたずねください。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。

非常時の施錠 / 解錠

エマージェンシーキー

リモコン操作で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアやテールゲートを解錠できます。

車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアやテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押す。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込む

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

キーからエマージェンシーキーを取り外す

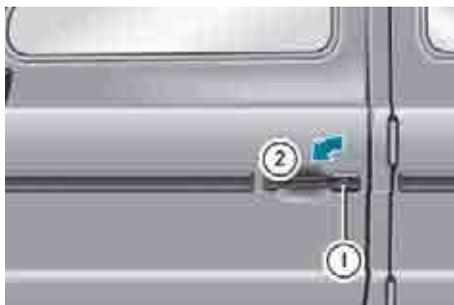
① エマージェンシーキー
② ストッパー

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのキーシリンダー①に差し込みます。

① キーシリンダー
② 解錠方向

▶ エマージェンシーキーを解錠方向②（前方）にまわします。

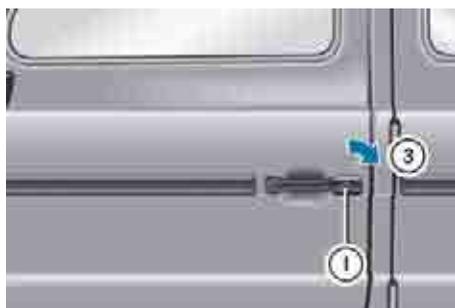
運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダー①から抜きます。

車両の施錠

リモコン操作で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

- ▶ 助手席ドア、リアドア、テールゲートを閉じます。
- ▶ ドアロックスイッチ（施錠）を押します（▷58 ページ）。
- ▶ 助手席ドア、リアドア、テールゲートのロックノブが下がっていることを確認します。

  下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。

① キーシリンダー
③ 施錠方向

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。
- ▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのキーシリンダー①に差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキーを施錠方向③（後方）にまわします。

  運転席ドアのロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。
- ▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダー①から抜きます。
- ▶ すべてのドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

燃料給油フラップの手動解錠

⚠ けがのおそれがあります

ボディの内側には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

燃料給油フラップのリリースストラップは、ラゲッジルーム右側のテールゲート開口部横の内側にあります。

① カバー
② インナーモール

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ インナーモール②を取り外します。
- ▶ カバー①を外します。

③ ストラップ

- ストラップ③を矢印の方向に引き上げます。

  燃料給油フラップが解錠されます。
- 燃料給油フラップを開きます。

スライディングルーフの手動操作

バッテリーあがりやスライディングルーフの故障などで、スイッチで閉じたりチルトダウンできないときは、手動で操作することができます。

スライディングルーフの手動操作部は、ラゲッジルーム左側のテールゲート開口部横の内側にあります。

① テールゲート
② カバー
③ インナーモール

- テールゲート①を開きます。
- インナーモール③を取り外します。
- カバー②を外します。

④ 手動駆動部
⑤ ホイールレンチ

- 車載工具のホイールレンチ⑤を手動用駆動部（六角形のボルト）④に差し込みます。
- ホイールレンチ⑤を時計回りにまわします。

※ 車種や仕様により、ホイールレンチ⑤の代わりに車載の専用工具を使用する場合があります。

! ホイールレンチは確実に奥に差し込んでください。差し込みが十分でないと、駆動部を損傷するおそれがあります。

! 手動駆動部を無理にまわさないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

パーキングロックの解除

バッテリーがあがったときや電気装備に故障が発生したときは、セレクターレバーを P から動かすことができなくなることがあります。

このようなときは、手動でパーキングロックを解除してセレクターレバーを P から動かします。

① 差し込み口
② ドライバーなど

パーキングロックを解除する

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーの左側後方にある差し込み口①にドライバーなど②を差し込みます。

▶ ドライバーなどを押しながら、セレクターレバーを P から他の位置に動かします。

! この方法でセレクターレバーを動かせないときは、指定サービス工場に連絡してください。

! セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場で点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 中毒のおそれがあります

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーの表示灯が一回点滅すれば電池は正常です。

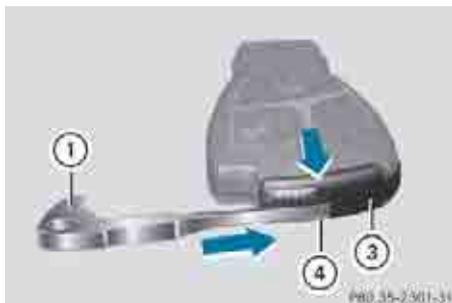
ℹ キーの電池が消耗したときは、エマージェンシーキーで解錠 / 施錠できます（▷233、234 ページ）。

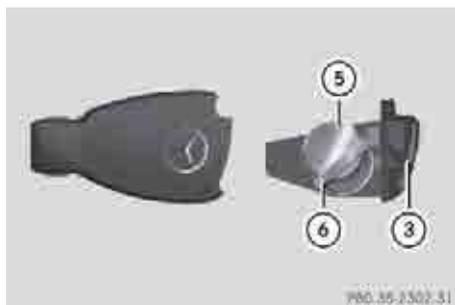
電池の交換

リチウム電池（CR2025）を 2 個用意します。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

電池の交換手順

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を抜き取ります。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①でストッパーの凹部④を押しながら、電池ケース③を引きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を外し、新しい電池と交換します。

電池は 2 個とも⊕を上にして、電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

ⓘ 電池を交換するときは 2 個同時に交換してください。

ⓘ 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したランプがすぐに切れた場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換は指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

けがのおそれがあります

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドランプの交換は行なわないでください。交換は必ず指定サービス工場で行なってください。

LED の交換は行なわないでください。LED や車両の部品を損傷するおそれがあります。

指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷211 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

電球一覧

	ランプ	ワット数(規格)
①	ドアミラー方向指示灯	LED
②	フロント方向指示灯	21W（黄色）
③	ヘッドランプ	35W（キセノン D1S）
	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W（青色）
④	フロントフォグランプ	55W（H11）
⑤	ハイマウントブレーキランプ	LED
⑥	リア方向指示灯	21W（黄色）
	ブレーキランプ / テールランプ	21W / 5W
	テールランプ / リアパーキングランプ	5W
⑦	リアフォグランプ	21W
⑧	ライセンスランプ	5W
⑨	バックランプ	21W

! 電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

パンクしたとき

⚠ **事故のおそれがあります**

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 路上でタイヤ交換をするときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

ℹ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

タイヤ交換の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ 車速感応ドアロックを解除します（▷122 ページ）。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろし、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。

▶ 車から降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

パンクしたタイヤを交換する

⚠ **事故のおそれがあります**

- 装着しているスペアタイヤが 6 年以上経過している場合や車両に適合しないタイプやサイズの場合は、最寄りの指定サービス工場で新品に交換してください。
- スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

事故のおそれがあります

- G 55 AMG long は、スペアタイヤに交換したときは必ず 80km/h 以下で走行してください。また、短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- G 55 AMG long はスペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。

タイヤ交換の準備

▶ 車載工具とジャッキを取り出します (▷208 ページ)。

▶ スペアタイヤを取り外します (▷209 ページ)。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

ℹ 輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ジャッキアップする

けがのおそれがあります

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜のきつい斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

事故のおそれがあります

ジャッキは正しい位置で使用してください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

また、ジャッキを使用する前に、ジャッキが当たる部分に異物や汚れがないことを確認してください。

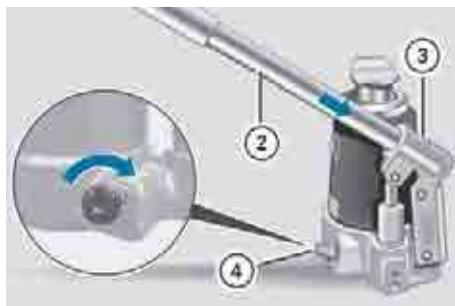
① ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

▶ 3 分割のジャッキレバーを 1 本に組み立てます。

② ジャッキレバー
③ ソケット
④ リリースバルブ

▶ 切り欠きがある側のジャッキレバー②の先端をリリースバルブ④に差し込み、時計回りにまわして停止することを確認します。

i ジャッキレバーを時計回りにまわして停止したときは、それ以上無理にまわさないでください。ジャッキを損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキレバーをリリースバルブから外し、切り欠きがある側のジャッキレバーの先端を、ソケット③の奥まで差し込み、反時計回りにまわして固定します。

▶ ジャッキレバーを上下に動かして、ジャッキが上昇することを確認します。

⑤ 車軸チューブ

▶ ジャッキを車軸チューブの下に置きます。

! 車軸チューブ以外の場所に使用しないでください。

! ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

! ジャッキアームが正しく車軸チューブの下に置かれていることを確認してください。

! ジャッキは側面から見て、垂直になるようにしてください。

! ジャッキの底面が、確実に路面に接地するようにしてください。

▶ ジャッキレバーを上下に動かし、タイヤが地面から離れるまでジャッキアップします。

ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から約 3cm 以内にしてください。

▶ ホイールボルトを外します。

▶ タイヤを取り外します。

! ホイールやホイールボルトを外したときは、以下の点に注意してください。

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを取り外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

スペアタイヤを取り付ける

 事故のおそれがあります

ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

 事故のおそれがあります

ホイールハブのネジ穴が損傷しているときは、走行しないで、指定サービス工場に連絡してください。

 事故のおそれがあります

スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるホイールボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にホイールが外れるおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ スペアタイヤをホイールハブに挿入してホイールボルトを差し込み、ホイールの位置決めを行ないます。

▶ すべてのホイールボルトを差し込み、軽く締め付けます。

ジャッキダウンする

▶ ジャッキレバー（▷243 ページ）をソケット（▷243 ページ）から外し、切り欠きがある側の先端をリリースバルブ（▷243 ページ）に取り付けます。

▶ ジャッキレバーを反時計回りにゆっくりまわして車を下げ、ジャッキを外します。

! リリースバルブは、車を下げるときに、1 ～ 2 回転だけゆるめてください。ゆるめすぎると内部から液が漏れるおそれがあります。

▶ ホイールボルトを図の順序で何度かにわけて締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 13kg-m（130Nm）です。

> **⚠ 事故のおそれがあります**
>
> ホイールを交換した後は、すみやかにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、ジャッキのリリースバルブを停止するまで時計回りにまわします。

▶ ジャッキと車載工具を元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤをラゲッジルーム内に収納します。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。 バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ けがのおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

i バッテリーの点検や交換は、指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

i バッテリー端子の取り外しや、バッテリーの取り外し、充電、交換については、指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

① リアシート足元中央部のフロアカバー
② ノブ

バッテリーはリアシート足元中央部のフロアカバー下にあります。

リアシート足元中央部のフロアカバーを取り外す

▶ ノブ②をまわします。

▶ リアシート足元中央部のフロアカバー①を取り外します。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター ① は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

ブースターケーブルは、エンジンルーム内にあるブースターケーブル専用の [+] 端子と [–] 端子に接続します。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ 爆発のおそれがあります

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

ⓘ バッテリーが凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ⓘ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

! リアシート足元中央部のフロア下にあるバッテリーには直接ブースターケーブルを接続しないでください。電気装備を損傷するおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときは指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用してください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

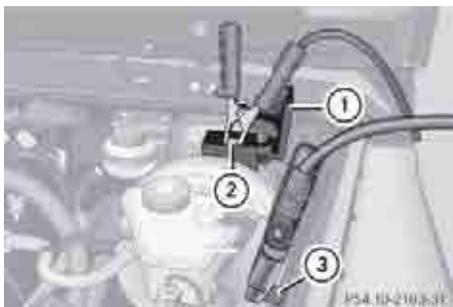
▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装置をすべて停止し、エンジンスイッチを**0**の位置にします。

▶ ボンネットを開きます。

① 自車の⊕端子カバー
② 自車の⊕端子
③ 自車の⊖端子

▶ 自車のエンジンルーム運転席側にある⊕端子カバー①を開きます。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子②に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの⊖端子③に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

! 電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 両車の⊖端子を接続しているケーブル、次に両車の⊕端子を接続しているケーブルを取り外します。

いずれのケーブルを取り外すときも、自車の端子から先に取り外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

▶ 指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

 事故のおそれがあります

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。
- ステアリングロックを解除できないときは、けん引を行なわないでください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! けん引されるときは、けん引防止警報機能を解除してください（▷50ページ）。

! けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷122ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。距離が50kmを超えるときは、車両運搬車で移送してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。

! エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

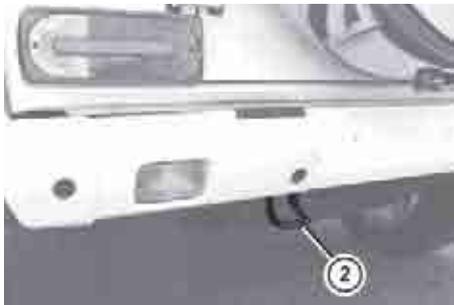
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの中央に白布（30cm × 30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

けん引フックの取り付け位置

フロント

① けん引フック（フロント）

フロントのけん引フック①はバンパーの向かって右側下部にあります。

リア

② けん引フック（リア）

リアのけん引フック②はバンパーの向かって左側下部にあります。

けん引する

▶ ロープをけん引フックにかけます。

▶ 車間距離が 5m 以内になるようにロープを結びます。

▶ ロープの中央に白い布（30cmX30cm 以上）を付けます。

▶ セレクターレバーを **N** に入れます。

ℹ フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを **0** の位置にしてください。ESP が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

ℹ バッテリーがあがっているときやバッテリーの接続が断たれているときは、セレクターレバーを **P** から動かすことができません。このようなときは、パーキングロックを手動で解除してください（▷236 ページ）。

エンジン / トランスミッション / 電気系統が故障しているとき

▶ セレクターレバーを **N** に入れて、トランスファーをニュートラルにします（▷100 ページ）。

ℹ トランスファーをニュートラルにできないときは、前後いずれかのアクスルを持ち上げてけん引してください。このときは、持ち上げたアクスルとトランスファーケースの間のドライブシャフトを外し、エンジンスイッチを **1** の位置にしてください。

トランスファーケースが故障しているとき

▶ 前後のアクスルからドライブシャフトを取り外し、フロントアクスルを持ち上げます。

フロントアクスルを損傷しているとき

▶ リアアクスルとトランスファーケース間のドライブシャフトを取り外し、フロントアクスルを持ち上げます。

リアアクスルを損傷しているとき

▶ フロントアクスルとトランスファーケース間のドライブシャフトを取り外し、リアアクスルを持ち上げ、フロントアクスルにホイールローラーを取り付けます。

ホイールローラーを取り付けないと、フロントアクスルの直進性が失われます。

! ドライブシャフトの取り付けナットは再使用できません。ドライブシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを **N** にします。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ぬかるみからけん引するとき

ぬかるみに埋まって動けなくなったときは、以下の点に注意してけん引してください。

- 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

  この場合はトレーラーを外し、車両後部のトレーラーカップリングを引くようにして、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ引き出してください。
- 駆動輪が柔らかい地面やぬかるみの中に埋まって動かなくなった車を引き出すときは、慎重に行なってください。積載物があるときは特に注意してください。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ **火災のおそれがあります**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理は指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

! ヒューズボックスのカバーを脱着するときは、内部に水分やほこりなどが入らないようにしてください。

! ヒューズボックスを開くときに、先のとがったものを使用しないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

! センターコンソール右側後部およびグローブボックス下部のヒューズボックスのヒューズの交換は指定サービス工場で行なってください。

ヒューズの位置

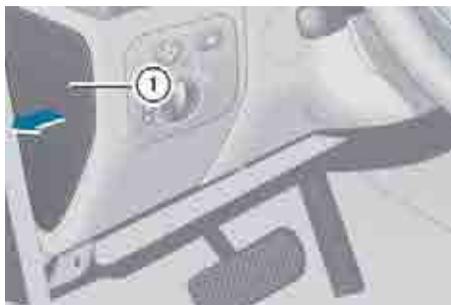
ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- ランプスイッチ横
- グローブボックス下部のヒューズボックス
- センターコンソール右側後部
- バッテリー収納部

ヒューズボックスを開く

▶ 停車して、すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

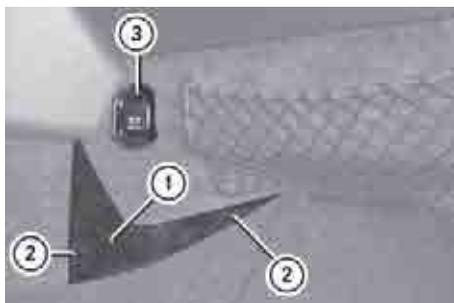
ランプスイッチ横のヒューズボックス

① ヒューズボックスカバー

ヒューズボックスカバーを取り外す

▶ 運転席ドアを開きます。

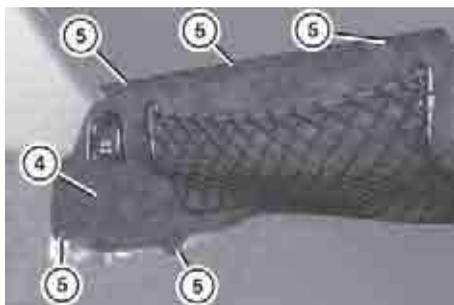
▶ ヒューズボックスカバー①を矢印の方向に引いて取り外します。

! ヒューズボックスを開くときに、ドライバーなどを使用しないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

グローブボックス下部のヒューズボックス

① センターコンソールのカバー
② ビス
③ 12V 電源ソケットのビス

ヒューズボックスカバーを取り外す

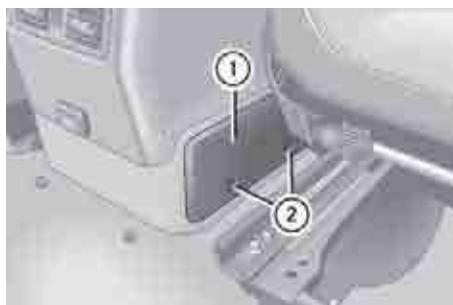
▶ ビス②を外してから、センターコンソールのカバー①を取り外します。

▶ 12V 電源ソケットのビス③を外します。

④ ダッシュボード下部のカバー
⑤ ビス

▶ ビス⑤を外してから、ダッシュボード下部のカバー④を取り外します。

⑥ ビス

グローブボックス下部のヒューズボックスは、交換作業を容易にするため、ビス⑥を外すことにより、少しだけ動かすことができます。

センターコンソール右側後部のヒューズボックス

① ヒューズボックスカバー
② スクリュー

ヒューズボックスカバーを取り外す

▶ 助手席シートをもっとも前およびもっとも高い位置にします。

▶ スクリュー②を水平の位置にします。

▶ ヒューズボックスカバー①を取り外します。

バッテリー収納部のヒューズボックス

リアシート足元中央部フロアカバー下のバッテリー収納部にヒューズボックスがあります。

バッテリー収納部のヒューズは交換の必要はありません。

ヒューズ交換が必要な場合は、指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヒューズを交換する

- ▶ 停車します。
- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。
- ▶ 該当ヒューズを取り外します。
- ▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス 1 (センターコンソール右側後部)

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	30A	オプション
2	30A	オプション
3	7.5A	COMAND システム
4	20A	燃料ポンプコントロールユニット（G 55 AMG long）
5	–	未使用
6	7.5A	燃料ポンプ内タンク（G 55 AMG long）
7	–	未使用
8	7.5A	盗難防止警報システム
9	25A	盗難防止警報システム、ルームランプ、バニティミラー照明、自動防眩ミラー、レインセンサー、スライディングルーフ
10	20A	リアデフォッガー
11	15A	COMAND システム
12	15A	トランスミッションセンサー
13	–	オプション
14	15A	リアウインドウウォッシャー
15	7.5A または 10A	燃料給油フラップロック、タンクキャップリリース
16	5A	オプション
17	20A	オプション
18	20A	オプション
19	20A	オプション
20	7.5A または 10A	リアドアセントラルロッキング

ヒューズボックス 2 (ライトスイッチ横)

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
21	30A	ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ、ステアリング調整
22	30A	ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
23	5A	ルームランプ
24	–	未使用
25	30A	シートヒーター
26	7.5A	乗降用ランプ、イルミネーテッドステップカバー
27	40A	運転席シート調整、ステアリング調整
28	15A	電源ソケット
29	15A	オプション
30	40A	エアコンディショナー、ブロワーモーター
31	20A	スターター、ステアリングロック
32	30A	リアパワーウインドウ
33	30A	リアパワーウインドウ
34	15A	オプション
35	–	未使用
36	–	未使用
37	15A	ディファレンシャルロック
38	40A	助手席シート調整
39	40A	トランスファーケース
40	25A	ESP
41	7.5A	エアコンディショナー、ブロワーモーター、ドアロックスイッチ、非常点滅灯、リアデフォッガー
42	7.5A	エアバッグ警告灯、メーターパネル、
A	7.5A または 10A	ブレーキランプ、ESP、回転センサー
B	10A	循環ポンプ（G 55 AMG long）、エンジンオイル冷却装置（G 55 AMG long）
C	5A	ヘッドランプ
D	5A	オプション
E	20A	COMAND システム
F	20A	リアシートヒーター
G	5A	オプション
H	7.5A	オプション

ヒューズボックス 3 (グローブボックス下部)

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
43A	15A	ホーン
43B	–	未使用
44	5A	電話
45	7.5A	エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
46	20A	ワイパー
47	15A	ライター、グローブボックスランプ
48	15A	イグニッションコイル
49	7.5A	エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
50	5A	リアシートヒーター
51	7.5A	メーターパネル
52	15A	スターター
53	15A	エンジンエレクトロニクス
54	15A	エンジンエレクトロニクス
55	7.5A	トランスミッションエレクトロニクス
56	5A	ディファレンシャルロック
57	5A	スターター
58	40A	オプション
59	50A	ESP
60	40A	オプション
61	15A	電源ソケット
62	5A	診断ソケット、ヘッドランプ
63	5A	ヘッドランプ、ディファレンシャルロック
64	10A	オプション
65	40A	セカンダリーエアインジェクション

（A463 545 12 00 2008-03-11）

ℹ ヒューズ配置表は、ヒューズボックス 2 の中にあります。

ℹ 仕様・装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

環　境

ダイムラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

i 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

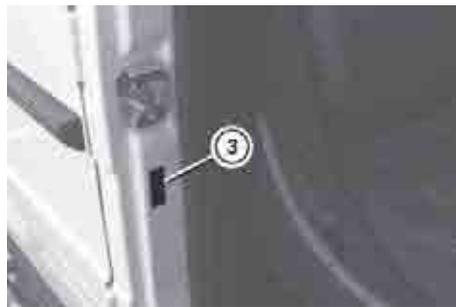
① ニューカープレート

車の車台番号やカラーコードを記載したニューカープレート①は、運転席側のセンターピラー下部に貼付されています。

車台番号

② 車台番号

車台番号②は、右側フロントホイールアーチ内のフレームに打刻されています。

オプションコードプレート

③ オプションコードプレート

オプションコードを示すプレート③は、助手席側のセンターピラー下部に貼付されています。

エンジン番号

エンジン番号は、エンジンブロックの右側後部に打刻してあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、指定サービス工場におたずねください。

ℹ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

 環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

 爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

 けがのおそれがあります

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 96 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 13 ℓ

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

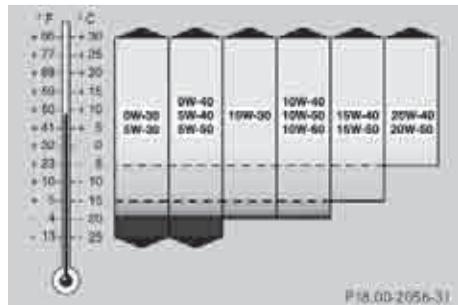
エンジンオイル容量

車種	容量
G 550 long	約 9.0
G 55 AMG long	約 8.5

ℹ 容量はオイルフィルター分を含んだ数値です。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

火災のおそれがあります

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

事故のおそれがあります

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

ウォッシャー液容量

全車	約 7.5 ℓ

 火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	90Ah / 95Ah / 100Ah

※ 車種や仕様により、上記のいずれかの容量のバッテリーが装備されます。

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ
全車	200kg

i ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷180 ページ）。

i タイヤやホイールに関して、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
G 550 long	265 / 60R18	軽合金 7.5J × 18	63mm
G 55 AMG long	275 / 55R19	軽合金 9.5J × 19	50mm

! G 55 AMG long は、標準タイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

i G 550 long の標準タイヤおよびスペアタイヤには、ブリヂストン製またはヨコハマ製の指定タイヤを使用することをお勧めします。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場にご相談ください。

スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイール	オフセット
G 550 long	265 / 60R18	軽合金 7.5J × 18	63mm
G 55 AMG long	265 / 60R18	軽合金 7.5J × 18	43mm

事故のおそれがあります

- G 55 AMG long はスペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- G 55 AMG long はスペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。

G 55 AMG long のスペアタイヤには、ヨコハマ製の指定タイヤを使用することをお勧めします。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

対象モデル

G 500 long
G 55 AMG long

"ESP®" はダイムラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2009 年 6 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目９番９号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 30840-060900080 N
6515 4097 20 RE2009/03a, 06/09